



履修要項



令和5年度 入学生用

Nagoya Women's University

名古屋女子大学 文学部

目次

はじめに	3
I. 単位制度について	4
II. ディプロマポリシー（学位授与の方針）	5
III. カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）	6
IV. 卒業要件について	8
V. 教育課程	9
全学共通科目	10
児童教育学科	11
1. 教育目的について	11
2. 授業科目について	11
3. 教育課程について	12
カリキュラムマップ	18
カリキュラムツリー	22
VI. 免許・資格	24
1. 教員免許状	24
〔教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目〕	26
中学校教諭一種免許状	27
小学校教諭一種免許状	29
幼稚園教諭一種免許状	31
2. 保育士資格	34
VII. 履修の案内	37
1. 履修登録について	37
2. 授業及び試験について	39
授業	39
〔1〕授業の開講形態／〔2〕授業時間割／〔3〕授業・試験時間／〔4〕休講／	
〔5〕補講／〔6〕欠席・遅刻・早退	
試験	40
〔1〕試験の種類と方法／〔2〕期末試験／〔3〕追試験／〔4〕やむを得ない理由	
を証明する書類／〔5〕再試験／〔6〕追・再試験手続一覧／〔7〕受験資格／	
〔8〕受験時の諸注意（期末試験、追・再試験）	

3. 成績について	44
〔1〕成績評価・単位の認定／〔2〕成績の通知／〔3〕成績の問い合わせ	
4. GPAについて	45
5. 単位互換制度について	46
VIII. 海外留学	46
「留学」について	46
教務関係の用語	47

はじめに

大学は、小学校、中学校、高等学校の勉学の仕方と、大きく異なる点があります。それは、何に対しても、これまでのように指示を待つのではなく、自分から学ぼうとする姿勢を持たねばならないということです。その際にこの『履修要項』が大きな役割を果たすことと思います。卒業まで必要に応じて活用し、単位数が不足して卒業できないということのないよう十分注意してください。

まず最初に、単位制度と卒業要件の説明があります。大学では単位制が採用され、卒業に必要な単位数が決められています。また、修得した単位には、あらかじめ決められた必修科目と選択科目が含まれていなければ卒業できません。

次に教育課程（カリキュラム）が掲載されています。どの授業科目を履修するかを決めるときは、「授業計画（シラバス）」とともに参考にしてください。免許や資格については、Ⅵ. 免許・資格で、留学については、Ⅷ. 海外留学で詳しく説明しています。

それから、履修の案内があります。単位を修得するためには履修登録をしなければなりません。期日が決められている上、なかなか面倒な手続きです。この要項をよく読んで、提出期日に遅れたり、手続き方法を間違えないよう十分注意してください。もし提出が遅れると授業が受けられません。そのほかに、授業時間、試験や成績のことについても書かれていますので、必ず目を通しておいてください。

学生の皆さんは、卒業まではこの『履修要項』を座右において、必要に応じてこの冊子を活用するようにしてください。また十分理解できないときは学生支援センターでたずねてください。

I. 単位制度について

大学の授業科目の履修には、大学設置基準に基づく単位制を採用しています。

- 1) 単位制とは、各年次に配当されている授業科目を履修して、その授業科目に定められている単位を修得(所定の試験に合格)し、これらの単位を一定数蓄積することにより卒業(あるいは各種免許・資格が取得)できる制度をいいます。
- 2) 単位とは、一つの授業科目の修得に必要な時間を示す基準であり、試験(筆記、レポート等)に合格することにより、その授業科目の単位の修得が認められます。1単位を修得するには、授業時間と授業時間外に必要な学修等をあわせて45時間の学修時間を必要とします。
- 3) 大学の授業時間は、通常、45分を「1時間」の授業とみなし、「2時間」(=90分)の授業が基本の授業時間です。
- 4) 授業科目は、その内容、形態により講義、演習、実験・実習及び実技のいずれかの種類に分けられ、それぞれ1単位当たりの学修に必要な時間数(単位計算基準)が次のように定められています。

講義科目 (1単位に必要な授業時間数は15時間)

- 1単位の場合 (毎週2時間の授業)×7.5回……………半期科目
- 2単位の場合 (毎週2時間の授業)×15回……………半期科目
- 4単位の場合 (毎週2時間の授業)×30回……………通年科目

演習科目 (1単位に必要な授業時間数は30時間。ただし、一部の科目は、15時間の授業時間数で1単位)

- 1単位の場合 (毎週2時間の授業)×15回……………半期科目
- 2単位の場合 (毎週2時間の授業)×30回……………通年科目

実験・実習・実技科目 (1単位に必要な授業時間数は45時間。ただし、全学共通科目<体育・健康科目>のスポーツ1、2に必要な授業時間数は30時間)

- 1単位の場合 (毎週3時間の授業)×15回……………半期科目
- 2単位の場合 (毎週3時間の授業)×30回……………通年科目

各科目の授業形態、単位数、授業時間数(週時間数)は、「V. 教育課程」の表を参照してください。
なお、半期科目、通年科目は次に示すとおりです。

半期科目(前期科目、後期科目)

前期または後期の半年間原則として授業を行い、半年ごとに単位認定をする科目

通年科目

1年間授業を行い、1年ごとに単位認定をする科目

Ⅱ．ディプロマポリシー（学位授与の方針）

文学部

文学部のディプロマ・ポリシーは、「知識・理解」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」の3つのカテゴリーで構成されています。学科が定める所定の単位を取得し、教育・保育の分野における専門性、学士力、豊かな人間性や社会性、およびコミュニケーション力を備え、教育や保育の分野において社会で貢献できる資質を身に付けた者に、学位を授与します。

児童教育学科

1. 達成目標

子どもにかかわる社会的・教育的・保育的背景を広く学び、コミュニケーション力や教育・保育の理論と時代の変化に対応できる実践力を身に付け、教育・保育に関わる専門的知識や技能、高い教養に裏打ちされた豊かな人間性や社会性、高度な指導力や地域貢献力を備えた職能人（幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭・保育士）として社会に貢献できる人材となること。

2. 学修成果

「学士」を授与される学生は、以下のような知識や能力を有します。

- ・教育と保育の理論に関わる知識および豊かな人間性を基盤として、子どもの成長を支援する実践力を身に付けていること。
- ・主体性および協調性、協働の基盤となるコミュニケーション力を備え、自らの成長に創造的に向き合う態度を身に付けていること。

Ⅲ．カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）

文学部

文学部は、建学の精神であり、学園の信条である「親切」を根幹としています。したがって、教育課程では、「個々の人格を陶冶し、かつ高い教養を身に纏った、よき家庭人であり力強い職能人としての女性を育成する」ことを目的としています。この目的を達成するため、第一に、学士力向上を目標として教養科目、外国語科目などを全学共通で設け、幅広い視野に立った豊かな人間性を育成しています。第二に、教育・保育の分野を中心とした豊かな専門知識に支えられ、時代の変化に対応できるコミュニケーション力に基づく優れた実践力と教育への深い見識を備えた職能人を育成するため、必要な専門科目を設け、それらが有機的連携を保ちつつ、体系的な教育課程を実現しています。学部全体では、コミュニケーション力を有し、教育や保育の分野において社会貢献できる人材を育てるための教育課程を編成しています。

児童教育学科

1. 人材育成目標

主体性と協調性、高いコミュニケーション力で創造的に課題解決に向き合える態度を有し、教育・保育の分野における豊かな専門知識や実践的技能に加え、豊かな人間性や社会性、高度な指導力や地域貢献力を備えた職能人（幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭・保育士）を育成します。

2. 教育課程の編成目標

(1) GPA

GPAを活用して、学修成果を振り返りながら学生指導を行います。

(2) 共通科目・入門的専門科目の設定・充実

幅広い教養・コミュニケーション力の基盤を身に付けるために、「人間形成」「一般教育」「芸術」「外国語」「情報・表現」「体育・健康」のカテゴリーに分かれた全学共通科目を配置しています。大学生活における目標を見定めるとともに主体性と協調性を基盤とする課題解決力の基礎を身に付けるために、大学での学びの導入としての入門的専門科目（教育・保育基礎演習）を1年次に配置しています。

(3) 履修科目群の具体化

下記6領域において理論と実践を関連させながら高度な専門性を養うため基礎から専門に至る科目を体系的に配しており、カリキュラムマップによって教育課程の体系的性、科目間の関連を分かりやすく示しています。

- ①自己の教育観・保育観を形成する上で必要な教育の基礎理論になる科目、自ら課題を発見し、問題の解決方法を創造的に探求する能力を開発する演習科目、および保育の本質・目的に関わる科目の配置
- ②教育と保育の理論と内容に関する科目、教育学・心理学分野を中心に教育の理論面を幅広く学ぶ科目、幼稚園の領域に関する専門的事項を学ぶ科目、保育の対象を理解するための科目の配置
- ③教育と保育の実践を支える科目、小学校における各教科目の教育法・指導法に関する科目、保育の内容・方法に関する科目の配置
- ④中学校における国語科の教育法・指導法および理論と内容に関する科目、幼稚園・小学校・保育所

における国語教育に対応できる科目の配置

⑤教育実習およびその他の社会での教育活動を奨励する科目の配置

⑥小学校における外国語および外国語活動、幼稚園・中学校・保育所における国際理解教育に対応できる科目の配置

(4) 専門科目群

- ・教育と保育の基礎理論となる科目(必修3科目、選択20科目：講義17科目、演習6科目)
- ・教育と保育の理論と内容に関する科目(選択50科目：講義27科目、演習23科目)
- ・教育と保育の実践を支える科目(選択29科目：演習29科目)
- ・国語教育を支える科目(選択26科目：講義22科目、演習4科目)
- ・実地教育に関わる科目(選択28科目：講義5科目、演習12科目、実習11科目)
- ・初等英語教育を支える科目(選択5科目：講義1科目、演習2科目、実習2科目)

3. 学修成果測定

- ・ルーブリックを用いたパフォーマンス評価による学修成果の可視化
- ・GPAおよび単位取得状況による学修成果の達成状況の確認
- ・学修ポートフォリオおよび教職履修カルテによる学修成果の蓄積と確認
- ・保育・教育に関わる専門知識・技能に関する卒業論文(論文・作品製作・演奏等)の審査

4. 学修環境

学修成果を生み出すために以下のような学修環境を提供します。

- ・実習、プレゼンテーション、プロジェクト学習(PBL)、ディベートなどのアクティブラーニングの実施
- ・海外スクールインターンシップ
- ・少人数教育を重視した教育(ゼミナール)
- ・演習を通じた内容の深い理解・体験
- ・基礎スキル育成のための入門的な科目(教育・保育基礎演習、情報、日本語、外国語)

特に、講義・演習・実習という科目を通じて、理論と実践を有機的に関連させながら、内容への理解を深めるとともに高い実践力を獲得させ、高度な専門性を身に付けさせます。

IV. 卒業要件について

大学を卒業するためには、4年以上在学し、学科が定める教育課程に従って授業科目を履修し、次の表に示す所定の単位数以上を修得しなければなりません。

【児童教育学科】

授業科目の区分		卒業に必要な単位数		
		授業科目の区分ごとに定める必要単位数	自由選択科目	合計
全学共通科目	人間形成科目	必修3単位を含めて9単位以上	29単位以上	129単位以上
	一般教育科目			
	芸術科目			
	外国語科目	必修8単位を含めて10単位以上		
	情報・表現科目			
	体育・健康科目			
児童教育学科専門科目		5単位必修		
		75単位選択		

自由選択科目

どの科目区分から履修してもよい。各科目区分で定められた卒業に必要な単位数を超えて修得した単位数で充足されます。

単位互換科目

県内すべての4年制大学が加盟する愛知学長懇話会において締結された「単位互換に関する包括協定」に基づき他大学で単位互換向けに開放される科目及び、「名古屋女子大学と名古屋女子大学短期大学部の単位互換に関する協定書」に基づき名古屋女子大学短期大学部で開放される科目を履修し、本学の単位として卒業要件の自由選択科目に算入できる制度があります。詳しいことは学生支援センターに問い合わせてください。名古屋女子大学短期大学部との単位互換制度については46ページを参照してください。その他、他大学開放科目等、他大学が開放している授業科目で単位認定証明のあるものを含みます。

V. 教育課程

- 教育課程(カリキュラム)は、全学共通科目と専門科目にわけて編成されています。そしてそれぞれに修得しなければならない最低単位数が定められています。また、各授業科目区分には必修科目と選択科目および選択必修科目があり、体系的に修得するように各年次に配当されています。

必修科目

教育課程のうち、必ず単位を修得しなければならない科目。

選択科目

教育課程のうち、自由に選択して単位を修得することができる科目。

選択必修科目

教育課程のうち、特定の科目の中から一定の単位を必ず修得しなければならない科目。

- 上記のほか、各種免許・資格に関する授業科目が開設されています。これらは、いずれもその免許・資格を取得する上で必要な科目です。

全学共通科目

文学部開講科目

科 目	授 業 科 目	単位数		授 業 形 態	配 当 学 年								授 業 時 間 数	中 免 一 種	小 免 一 種	幼 免 一 種	保 育 士	備 考
		必 修	選 択		1 年		2 年		3 年		4 年							
					前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期						
人 間 形 成 科 目	建 学 の こ こ ろ	1		講 義									—					必 修 3 単 位 を 含 め て 9 単 位 以 上 修 得 す る こ と
	建 総 合 女 性 学	2		講 義									2					
	キ ャ リ ア 入 門	2		講 義									2					
一 般 教 育 科 目	哲 学 の 方 法	2		講 義									2					
	心 の し く み	2		講 義									2					
	文 学 の 表 現 と 鑑 賞	2		講 義									2					
	歴 史 に 学 ぶ	2		講 義									2					
	国 際 事 情	2		講 義									2					
	日 本 国 憲 法	2		講 義									2	◎	◎	◎		
	く ら し の 経 済	2		講 義									2					
	生 活 と 地 理	2		講 義									2					
	数 学 の 世 界	2		講 義									2					
	一 般 化 学	2		講 義									2					
	生 命 の し く み	2		講 義									2					
	生 活 の 物 理	2		講 義									2					
	地 球 環 境 と 人 間	2		講 義									2					
	初 年 次 セ ミ ナ ー	2		講 義									2					
初 年 次 演 習	1		演 習									2						
芸 術 科 目	音 楽	1		演 習									2					
	美 術	1		演 習									2					
	書 道	1		演 習									2					
外 国 語 科 目	Basic English 1	1		演 習									2	◎	◎	◎		
	Basic English 2	1		演 習									2	◎	◎	◎		
	Advanced English 1	1		演 習									2					
	Advanced English 2	1		演 習									2					
	総 合 英 語 A - 1	1		演 習									2	◎	◎	◎	◎	
	総 合 英 語 A - 2	1		演 習									2	◎	◎	◎	◎	
	総 合 英 語 B - 1	1		演 習									2					
	総 合 英 語 B - 2	1		演 習									2					
	初 級 フ ラ ン ス 語 1	1		演 習									2					
	初 級 フ ラ ン ス 語 2	1		演 習									2					
	中 級 フ ラ ン ス 語	1		演 習									2					
	初 級 中 国 語 1	1		演 習									2					
	初 級 中 国 語 2	1		演 習									2					
中 級 中 国 語	1		演 習									2						
表 現 科 目	情 報 処 理 演 習 1	1		演 習									2	◎	◎	◎	◎	
	情 報 処 理 演 習 2	1		演 習									2	◎	◎	◎	◎	
	日 本 語 表 現 法 1	1		演 習									2	◎				
	日 本 語 表 現 法 2	1		演 習									2	◎				
健 康 科 目	健 康 科 学	2		講 義									2				◎	
	ス ポ ー ツ 1	1		実 技									2	◎	◎	◎	◎	
	ス ポ ー ツ 2	1		実 技									2	◎	◎	◎	◎	

(注) 1. 教員免許状(中免一種、小免一種、幼免一種)を取得するためには、◎印<必修>の単位を修得すること。
 2. 保育士資格を取得するためには、◎印<必修>、○印<選択>の単位を修得すること。
 3. 開講学年・時期は各年度の授業計画により変更する場合がある。
 4. 「初級フランス語2」または「初級中国語2」は、「初級フランス語1」または「初級中国語1」を履修していないと履修できません。また「初級フランス語1」または「初級中国語1」が「失格」または「不合格」になった場合は、「初級フランス語2」または「初級中国語2」は履修できません。
 5. 「中級フランス語」「中級中国語」は、「初級フランス語2」「初級中国語2」の単位を修得していないと履修できません。

全学共通科目

1. 教育目的について

子どもに関わる社会的・教育的・保育的背景を広く学び、教育・保育の理論と時代の変化に対応できるコミュニケーション力や実践力を身に付け、高い教養と専門性をもって、社会に貢献できる職能人としての教育者・保育者（幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭・保育士）の育成を目的としています。教育・保育に関わる専門的な知識や技能に加えて、豊かな人間性や社会性を身に付け、高度な指導力や地域貢献力を備えた教育者・保育者を育成します。

2. 授業科目について

児童教育学科は、上で述べたように子どもの成長に関わる有能な教育者・保育者（幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭・保育士）を養成することを目的としています。したがって、本学科の学生には、将来の専門職への自覚を持って履修計画を立てること、卒業論文演習や卒業論文に代表される主体的に学ぶ機会を積極的に利用することを含め、常に継続的で勤勉な学習態度が要求されます。これらの蓄積を基盤にして、幼稚園・小学校・中学校での教育実習、保育所・施設での保育実習や介護等体験において実践的な学びが実現することになります。

人間的基礎力を養う豊かなカリキュラムには、1) 教育と保育の基礎理論となる科目、2) 教育と保育の理論と内容に関する科目、3) 教育と保育の実践を支える科目、4) 国語教育を支える科目、5) 実地教育に関わる科目、6) 初等英語教育を支える科目の6領域が設けられています。

- 1) の領域は、自分自身の教育観・保育観を形成する上で必要な基礎理論になる科目と、自ら課題を発見し、問題の解決方法を創造的に探究する能力を開発する演習科目とで構成されており、幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭・保育士にむけての素地を作る科目を配しました。
- 2) の領域は、児童教育・幼児教育の理論と内容を幅広く学べるように科目を充実させ、教育者・保育者として豊かな能力を身につけられるように構成された科目群を配しました。
- 3) の領域は、幼稚園・小学校・保育所における教育・保育の指導法を中心に配し、情報関連科目も充実させて教育者・保育者としての基礎的実践力を身につけられるように配慮された科目群を配しました。
- 4) の領域は、中学校における国語科の教育法・指導法および理論と内容に関する科目、幼稚園・小学校・保育所における国語教育に対応できる科目を設定し、国語に基づく文章理解・作成の能力および国語を通じた日本文化理解の力を養うことができるように科目群を配しました。
- 5) の領域は、教育・保育実習およびその他の社会での教育・保育活動を奨励する科目を設定し、実践力を高めるとともに地域社会に貢献できる姿勢や態度が育成できるよう配慮された科目群を配しました。
- 6) の領域は、小学校における外国語および外国語活動、幼稚園・中学校・保育所における国際理解教育・早期英語教育に対応できる科目を設定し、英語によるコミュニケーションの基礎的実践力を養うことができるように配慮された科目を配しました。

本学科のカリキュラムの特徴は、児童教育を中心とし小学校と幼稚園・中学校・保育所との連携を意識し、幼児から児童に至る教育・保育上の理論面と実践面とを合わせて学ぶところにあります。

3. 教育課程について

児童教育学科 専門科目

授 業 科 目	単 位 数	授 業 形 態	配 当 学 年								授 業 時 間 数	免 許 ・ 資 格				小 中 履 修 モ デ ル	小 幼 履 修 モ デ ル	幼 保 履 修 モ デ ル	備 考
			1 年		2 年		3 年		4 年			中 一 種	小 一 種	幼 一 種	保 育 士				
			前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期									
教育原理Ⅰ	2	講義								2	○	○	○	○	○	○	○		
教育原理Ⅱ	2	講義								2	△	△	△	△	○	○	○		
教師論	2	講義								2	○	○	△	○	○	○	○		
教職入門	2	講義								2	○	○	○		○	○	○		
教育心理学	2	講義								2	○	○	○	△	○	○	○		
道徳教育の理論と方法	2	講義								2	○	○			○	○			
ICT活用の理論と方法	1	演習								2	○	○			○	○			
教育の方法と技術	1	演習								2	○	○	○		○	○	○		
教育制度論	2	講義								2	☆	☆	☆		○	○	○		
教育社会学	2	講義								2	☆	☆	☆		○	○	○		
教育課程論	2	講義								2	○	○	○		○	○	○		
保育の計画と評価	2	講義								2				○			○		
教育史	2	講義								2	△	△	△	△	○	○	○		
特別支援教育	2	講義								2	○	○	○	△	○	○	○		
教育・保育基礎演習	1	演習								2					○	○	○		
実践課題研究Ⅰ	1	演習								2					○	○	○		
実践課題研究Ⅱ	1	演習								2					○	○	○		
保育原理Ⅰ	2	講義								2				○			○		
保育原理Ⅱ	2	講義								2				△			○		
子ども家庭福祉Ⅰ	2	講義								2				○			○		
子ども家庭福祉Ⅱ	2	演習								2				△			○		
社会福祉Ⅰ	2	講義								2				○			○		
社会福祉Ⅱ	2	講義								2				△			○		
生徒指導論	2	講義								2	○	○			○	○			
進路指導論	2	講義								2	○	○			○	○			
教育相談(カウンセリングを含む)	2	講義								2	○	○	○		○	○	○		
保育・教職実践演習(幼・小・中)	2	演習								2	○	○	○	○	○	○	○		
専門基礎科目Ⅰ(理科系)	2	講義								2					○	○	○		
専門基礎科目Ⅱ(社会系)	2	講義								2					○	○	○		
専門基礎科目Ⅲ(数学系)	2	講義								2					○	○	○		
国語	2	講義								2	○	☆			○	○	○		
書道	1	演習								2	○				○	○			
社会A	2	講義								2	☆				○	○			
社会B	2	講義								2	☆				○	○			
算数	2	講義								2	○	☆			○	○	○		
理科A	2	講義								2	☆				○	○	○		
理科B	1	演習								2	☆				○	○	○		
理科C	1	演習								2	☆				○	○	○		
生活	2	講義								2	○	☆			○	○	○		
音楽演習Ⅰ	2	演習								2	☆				○	○			
音楽演習Ⅱ	2	演習								2	☆				○	○			
音楽演習Ⅲ	1	演習								2				△			○		
基礎造形	2	演習								2	○	☆			○	○	○		
造形演習	1	演習								2				△			○		
体育	2	講義								2	☆	☆			○	○	○		
体育演習	2	演習								2	☆				○	○	○		
家庭	2	講義								2	○				○	○	○		
外国語(英語)演習Ⅰ	2	演習								2	○				○	○	○		
外国語(英語)演習Ⅱ	2	演習								2	○				○	○	○		
特別活動の理論と方法	2	講義								2	○	○			○	○			
総合的学習の理論と方法	2	講義								2	○	○			○	○			
幼児と健康	1	講義								1			○		○	○			
幼児と人間関係	1	講義								1			○		○	○			
幼児と環境	1	講義								1			○		○	○			
幼児と言葉	1	講義								1			○		○	○			
幼児と表現	1	講義								1			○		○	○			

児童教育学科

授 業 科 目	単 位 数	授 業 形 態	配 当 学 年								授 業 時 間 数	免 許 ・ 資 格				小 中 履 修 モ デ ル	小 幼 履 修 モ デ ル	幼 保 履 修 モ デ ル	備 考
			1 年		2 年		3 年		4 年			中 一 種	小 一 種	幼 一 種	保 育 士				
			前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期									
教育と保育の理論と内容に関する科目	幼児理解の理論と方法	2	演習								2			○	△		○	○	
	子どもの理解と援助	1	演習								2			☆	○		○	○	
	保育の心理学	2	講義								2			☆	○		○	○	
	子ども家庭支援の心理学	2	講義								2				○			○	
	臨床心理学	2	演習								2				△			○	
	社会的養護Ⅰ	2	講義								2				○			○	
	社会的養護Ⅱ	1	演習								2				○			○	
	子どもの保健	2	講義								2				○			○	
	子どもの健康と安全	1	演習								2				○			○	
	子どもの食と栄養	2	演習								2				○			○	
	子ども家庭支援論	2	講義								2				○			○	
	子育て支援	1	演習								2				○			○	
	保育内容総論Ⅰ	1	演習								2			○	○		○	○	
	保育内容総論Ⅱ	1	演習								2				△			○	
	乳児保育Ⅰ	2	講義								2				○			○	
乳児保育Ⅱ	1	演習								2				○			○		
障害児保育	2	演習								2			☆	○		○	○		
教育と保育の実践を支える科目	子どもの科学実験指導法	2	演習								2						○	○	○
	国語科教育法(書写を含む)	2	演習								2		○				○	○	
	外国語科教育法	2	演習								2		○				○	○	
	社会科教育法	2	演習								2		○				○	○	
	算数科教育法	2	演習								2		○				○	○	
	理科教育法	2	演習								2		○				○	○	
	生活科教育法	2	演習								2		○				○	○	
	音楽科教育法	2	演習								2		○				○	○	
	図画工作科教育法	2	演習								2		○				○	○	
	家庭科教育法	2	演習								2		○				○	○	
	体育科教育法	2	演習								2		○				○	○	
	保育内容演習(健康)Ⅰ	1	演習								2			○	○		○	○	
	保育内容演習(健康)Ⅱ	1	演習								2			○	○		○	○	
	保育内容演習(人間関係)Ⅰ	1	演習								2			○	○		○	○	
	保育内容演習(人間関係)Ⅱ	1	演習								2			○	○		○	○	
	保育内容演習(環境)Ⅰ	1	演習								2			○	○		○	○	
	保育内容演習(環境)Ⅱ	1	演習								2			○	○		○	○	
	保育内容演習(言葉)Ⅰ	1	演習								2			○	○		○	○	
	保育内容演習(言葉)Ⅱ	1	演習								2			○	○		○	○	
	保育内容演習(表現)AⅠ	1	演習								2			○	○		○	○	
	保育内容演習(表現)AⅡ	1	演習								2			○	○		○	○	
	保育内容演習(表現)BⅠ	1	演習								2			○	○		○	○	
	保育内容演習(表現)BⅡ	1	演習								2			○	○		○	○	
	保育内容演習(遊びと文化)	2	演習								2				△			○	
	保育内容の理解と方法(言語表現)	2	演習								2			☆	○		○	○	
保育内容の理解と方法(身体表現)	2	演習								2				○			○		
保育内容の理解と方法(音楽表現)Ⅰ	2	演習								2				○			○		
保育内容の理解と方法(造形表現)	2	演習								2				○			○		
保育内容の理解と方法(音楽表現)Ⅱ	2	演習								2				△			○		
国語教育を支える科目	中学国語科教育法Ⅰ	2	講義								2	○					○		
	中学国語科教育法Ⅱ	2	講義								2	○					○		
	中学国語科教育法Ⅲ	2	講義								2	○					○		
	中学国語科教育法Ⅳ	2	講義								2	○					○		
	日本語学概論(日本語音声学を含む)	2	講義								2	○					○		
	日本語学研究	2	講義								2	△					○		
	日本語学講義	2	講義								2	○					○		
	日本語学演習	2	演習								2	△					○		
	日本語史	2	講義								2	○					○		
日本語文法論	2	講義								2	△					○			

授 業 科 目	単 位 数 必 修 選 択	授 業 形 態	配 当 学 年								授 業 時 間 数	免 許 ・ 資 格				小 中 履 修 モ デ ル	小 幼 履 修 モ デ ル	幼 保 履 修 モ デ ル	備 考
			1 年		2 年		3 年		4 年			中 一 種	小 一 種	幼 一 種	保 育 士				
			前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期									
国語教育を支える科目	作文指導論	2	講義								2	△				○			
	読書指導論	2	講義								2	△				○			
	日本文学概論	2	講義								2	○				○			
	日本文学史Ⅰ	2	講義								2	○				○			
	日本文学史Ⅱ	2	講義								2	○				○			
	日本の文学Ⅰ	2	講義								2	☆				○			
	日本の文学Ⅱ	2	講義								2	☆				○			
	日本文学演習	2	演習								2	△				○			
	漢字表現	2	講義								2	△				○			
	漢文	2	講義								2	○				○			
	書道(書写を中心とする)	2	演習								2	○				○			
	日本語文章論	2	講義								2					○			
	日本文化概論	2	講義								2					○			
	コミュニケーション論	2	講義								2					○			
	日本語スピーチクリニック	2	演習								2					○			
比較文学	2	講義								2					○				
実地教育に関わる科目	教育実習(中)	4	実習								-	○				○			
	教育実習指導(中)	1	講義								1	○				○			
	教育実習(小)	4	実習								-		☆			○			
	教育実習指導(小)	1	講義								1		☆			○			
	教育実習(幼・小)	4	実習								-		☆	☆			○		
	教育実習指導(幼・小)	1	講義								1		☆	☆				○	
	教育実習(幼)Ⅰ	4	実習								-			☆				○	
	教育実習指導(幼)Ⅰ	1	講義								1			☆					○
	教育実習(幼)Ⅱ	2	実習								-			△			○		
	教育実習指導(幼)Ⅱ	1	講義								1			△			○		
	介護等体験	1	実習								-	○	○			○	○		
	教育内容演習Ⅰ	1	演習								2					○	○		
	教育内容演習Ⅱ	1	演習								2					○	○		
	社会活動実習	1	実習								2					○	○	○	
	卒業論文演習Ⅰ	1	演習								1					○	○	○	
	卒業論文演習Ⅱ	1	演習								1					○	○	○	
	卒業論文演習Ⅲ	1	演習								1					○	○	○	
	卒業論文	6	演習								6					○	○	○	
	保育実習ⅠA	2	実習								-					○			○
	保育実習ⅠB	2	実習								-					○			○
	保育実習指導ⅠA	1	演習								2					○			○
	保育実習指導ⅠB	1	演習								2					○			○
	保育実習Ⅱ	2	実習								-					○			○
保育実習指導Ⅱ	1	演習								2					○			○	
保育実習Ⅲ	2	実習								-			△					○	
保育実習指導Ⅲ	1	演習								2			△					○	
幼児保育総合演習Ⅰ	1	演習								2								○	
幼児保育総合演習Ⅱ	1	演習								2								○	
初等英語教育を支える科目	外国語(英語)演習Ⅲ	2	演習							2						○	○		
	外国語(英語)演習Ⅳ	1	演習							2						○	○		
	異文化理解論	2	講義							2						○	○		
	海外スクールインターシップ	4	実習								-					○	○	○	
	海外語学実習	2	実習								-					○	○	○	

- (注) 1. 免許・資格欄の○印は、「中学校教諭一種免許状」「小学校教諭一種免許状」「幼稚園教諭一種免許状」「保育士資格」それぞれの取得に必要な必修科目。△印は選択科目。☆印は、選択必修科目。
2. 履修モデル欄の○印は、それぞれのモデルに関連する科目。 3. 開講学年・時期は各学年度の授業計画により変更する場合があります。
4. 「実践課題研究Ⅱ」は、「実践課題研究Ⅰ」を履修していないと履修できません。また「実践課題研究Ⅰ」が「失格」または「不合格」になった場合は、「実践課題研究Ⅱ」は履修できません。
5. 「教育原理Ⅱ」は、「教育原理Ⅰ」の単位を修得していないと履修できません。
6. 実習は、対応する実習指導を履修していないと履修できません。

『カリキュラムマップ』と『カリキュラムツリー』

カリキュラムマップとカリキュラムツリーは、身につけてほしい知識・能力と授業科目との対応関係を体系的にわかりやすく示したものです。

カリキュラムマップ

ディプロマポリシー（学位授与の方針）と授業科目の関係を示したものです。

卒業時に学科のディプロマポリシーの達成目標に到達するため、授業科目と学修成果の関係を説明しています。授業科目によって育成する能力が異なるため、伸ばしたい能力など必要に応じて科目選択の参考にしてください。

カリキュラムツリー

到達目標を達成するために、授業科目間の系統性や関連性、配当年次を示しています。

履修の際には、左側にある科目から履修することが前提となりますので、履修計画を立てる際の参考にしてください。

科目ナンバリングについて

科目ナンバリングは、学修の段階や順序等を数字で表示することにより、教育課程の体系をわかりやすくし、履修登録時の目安とするために設定しています。科目ナンバリングのコードは、以下の構成となっています。

例) 大学全学共通科目「日本国憲法」の場合

UA0 0 32 L 2 06 L - N2T1T3T4T5T6T7

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦

①と②の間の「0」は予備コードです。

① 学部・学科コード (アルファベット 3 文字)

大学

学部・学科・専攻	コード	学部・学科・専攻	コード	学部・学科・専攻	コード	学部・学科・専攻	コード
大学全学共通科目	UA0	健康科学部 健康栄養学科	HH0	医療科学部 学科間共通科目	MB0	文学部 児童教育学科	LC0
家政学部 生活環境学科	EE0	健康科学部 看護学科	HN0	医療科学部 理学療法学科	MP0		
家政学部 教職課程	ET0	健康科学部 教職課程	HT0	医療科学部 作業療法学科	MO0		

短大

学部・学科・専攻	コード	学部・学科・専攻	コード	学部・学科・専攻	コード
短大 全学共通科目	CA0	生活学科	AL0	保育学科 第一部・第三部	EC0

専攻コードがない場合は、0になります。

② 分野コード (数字 2 文字)

図書館の分類表と同じ分類 (日本十進分類法の 2 次区分表) を使用し、科目の分野を表現しています。

③ 授業形態 (アルファベット 1 文字)

授業形態	コード	授業形態	コード	授業形態	コード	授業形態	コード	授業形態	コード
講義	L	演習	E	実験	M	実習	T	実技	P

④ 科目分類 (数字またはアルファベット 1 文字)

各学科の教育課程の科目分類ごとに区分しています。全学共通科目は数字 1 文字、専門科目はアルファベット 1 文字です。

⑤ 授業識別番号 (数字 2 文字)

科目分類と合わせて、授業を識別するための個別コードです。

⑥ レベル (アルファベット 1 文字)

レベル	コード	レベル	コード	レベル	コード	レベル	コード
基礎的な内容	L	発展的な内容	M	卒論・実習系	H	その他	Z

⑦ 資格コード (アルファベットと数字で 2 文字)

資格取得に係る科目には、資格コードが付与されています。

資格名称	コード	資格名称	コード	資格名称	コード
一級建築士受験資格	A1	保育士	H1	幼稚園教諭一種免許状	T1
二級建築士・インテリアプランナー受験資格	A2	秘書士	S1	幼稚園教諭二種免許状	T2
テキスタイルアドバイザー	C1	情報処理士	J1	小学校教諭一種免許状	T3
フォーマルスベシャリストブロンズライセンス	C2	上級情報処理士	J2	中学校教諭一種免許状 (国語)	T4
ドレメ式教員認定	C3	ビジネス実務士	J3	中学校教諭一種免許状 (家庭)	T5
栄養士免許証	E1	上級ビジネス実務士	J4	高等学校教諭一種免許状 (家庭)	T6
管理栄養士国家試験受験資格	E2	看護師国家試験受験資格	N1	栄養教諭一種免許状	T7
食品衛生監視員及び管理者任用資格	E3	保健師国家試験受験資格	N2	理学療法士国家試験受験資格	R1
フードコーディネーター	F1	養護教諭二種免許状	N3	作業療法士国家試験受験資格	R2
フードスペシャリスト	F2				

〈児童教育学科〉カリキュラムマップ

目標のキーワード

到達目標（学修成果目標）

DP：ディプロマポリシー

①知識・理解	①DP1 児童・生徒・幼児を対象とした教育・保育の現状と課題を理解し、社会のグローバル化や保幼小連携および小・中連携等を視野に入れつつ、これからの教育者・保育者に求められる専門的知識を習得する。
②思考力・判断力・表現力	②DP2 豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力を基盤とし、複雑に変化し続ける教育・保育現場にも対応しうる深い思考・判断・表現の力および高度な指導力を身に付ける。
③主体性・多様性・協働性	③DP3 子どもの成長に寄与する職人として、主体性や協調性を大切にしながら、様々な問題の解決に向けて創造的かつ協働的に向き合う態度を身に付ける。

科目別目標

全学共通科目

特に重点的に育成する能力=◎、重点的に育成する能力=○

学年	期	ナンバリング	科目名	資格コード	①	②	③
1	前期	UA0 0 00 L 1 01 Z	建学のこころ		◎	○	◎
		UA0 0 83 E 4 01 L	Basic English 1	N2N3T1T3T4T5T6T7	◎	○	○
		UA0 0 83 E 4 05 L	総合英語A-1	H1N2N3T1T3T4T5T6T7	◎	○	○
		UA0 0 54 E 5 01 L	情報処理演習1	H1J1J2N2N3T1T3T4T5T6T7	◎	○	○
		UA0 0 81 E 5 03 L	日本語表現法1	T4	◎	◎	○
		UA0 0 37 L 2 14 L	初年次セミナー		◎	○	○
		LC0 0 37 L a 01 L	教育原理I	H1T1T3T4	◎	○	
		LC0 0 37 E a 31 L	教育・保育基礎演習		◎	◎	○
		LC0 0 37 L a 41 L	保育原理I	H1	◎	○	○
		LC0 0 40 L b 71 L	専門基礎科目I（理科系）		◎	○	○
		LC0 0 37 L b 51 L	保育の心理学	H1T1	◎	○	○
		LC0 0 49 L b 64 M	子どもの保健	H1	◎	○	○
		LC0 0 37 E b 53 L	保育内容総論I	H1T1	◎	○	○
		LC0 0 81 L d 11 L	日本語学概論（日本語音声学を含む）	T4	◎	○	○
		LC0 0 91 L d 31 L	日本文学概論	T4	◎	○	○
1・2		UA0 0 33 L 2 05 L	国際事情		◎	○	○
		UA0 0 33 L 2 07 L	くらしの経済		◎	○	○
		UA0 0 43 L 2 10 L	一般化学		◎	○	○
		UA0 0 46 L 2 11 L	生命のしくみ		◎	○	○
		UA0 0 85 E 4 09 L	初級フランス語1		◎	◎	○
		UA0 0 82 E 4 12 L	初級中国語1		◎	◎	○
		UA0 0 49 L 6 01 L	健康科学	H1N2	◎	○	○
		UA0 0 78 P 6 02 L	スポーツ1	H1N2N3T1T3T4T5T6T7	◎	◎	○
1	通年	LC0 0 37 E b 22 L	音楽演習I	T3	○	◎	○
		LC0 0 37 E b 23 L	基礎造形	T1T3	○	○	◎
		LC0 0 83 E b 24 L	外国語（英語）演習I	T3	◎	◎	○
		LC0 0 37 E c 62 L	保育内容の理解と方法（言語表現）	H1T1	◎	◎	○
		LC0 0 37 E c 63 M	保育内容の理解と方法（音楽表現）I	H1	◎	◎	○
		LC0 0 37 E c 65 M	保育内容の理解と方法（造形表現）	H1	◎	◎	○
	後期	UA0 0 83 E 4 02 L	Basic English 2	N2N3T1T3T4T5T6T7	◎	○	○
		UA0 0 83 E 4 06 L	総合英語A-2	H1N2N3T1T3T4T5T6T7	◎	○	○
		UA0 0 54 E 5 02 L	情報処理演習2	H1J1J2N2N3T1T3T4T5T6T7	◎	○	○
		UA0 0 81 E 5 04 L	日本語表現法2	T4	◎	◎	○
		UA0 0 37 E 2 15 L	初年次演習		○	◎	
		LC0 0 37 L a 11 L	教職入門	T1T3T4	◎	○	○
		LC0 0 42 L b 11 M	理科A	T3	◎	○	○
		LC0 0 37 L b 21 M	生活	T1T3	◎	○	○
		LC0 0 37 L b 31 L	幼児と健康	T1	◎	○	○
LC0 0 37 L b 32 L	幼児と人間関係	T1	◎	○	○		
LC0 0 37 L b 33 M	幼児と環境	T1	◎	○	○		

学年	期	ナンバリング						科目名	資格コード	①	②	③	
1		LC0	0	37	L	b	34	L	幼児と言葉	T1	◎	○	○
		LC0	0	37	L	b	35	L	幼児と表現	T1	◎	○	○
		LC0	0	36	L	b	63	L	子ども家庭支援の心理学	H1	◎	○	○
		LC0	0	36	L	b	61	L	社会的養護 I	H1	◎	○	○
		LC0	0	91	L	d	21	L	日本文学史 I	T4	◎	○	○
		LC0	0	72	E	d	45	L	書道（書写を中心とする）	T4	○	◎	○
		LC0	0	80	L	d	52	L	コミュニケーション論		○	◎	○
1・2	後期	UA0	0	36	L	1	02	M	総合女性学		◎	○	○
		UA0	0	36	L	1	03	L	キャリア入門		◎	○	○
		UA0	0	14	L	2	02	L	心のしくみ		◎	○	○
		UA0	0	32	L	2	06	L	日本国憲法	N2N3T1T3T4T5T6T7	◎	○	○
		UA0	0	42	L	2	12	L	生活の物理		◎	○	○
		UA0	0	45	L	2	13	L	地球環境と人間		◎	○	○
		UA0	0	85	E	4	10	L	初級フランス語 2		◎	◎	○
		UA0	0	82	E	4	13	L	初級中国語 2		◎	◎	○
		UA0	0	78	P	6	03	L	スポーツ 2	H1N2N3T1T3T4T5T6T7	◎	◎	○
1～4		LC0	0	37	T	f	01	H	海外スクールインターンシップ		○	◎	◎
		LC0	0	80	T	f	02	H	海外語学実習		○	◎	◎
2	前期	UA0	0	83	E	4	03	M	Advanced English 1		◎	○	○
		UA0	0	83	E	4	07	M	総合英語 B-1		◎	○	○
		LC0	0	37	L	a	12	L	教師論	H1T1T3T4	◎	○	○
		LC0	0	37	L	a	13	L	教育心理学	H1T1T3T4	◎	○	○
		LC0	0	37	E	a	32	L	実践課題研究 I		○	○	◎
		LC0	0	30	L	b	72	L	専門基礎科目Ⅱ（社会系）		◎	○	○
		LC0	0	37	L	b	13	L	国語	T1T3	◎	○	○
		LC0	0	46	E	b	12	L	理科 B	T3	◎	○	○
		LC0	0	36	E	b	62	M	社会的養護Ⅱ	H1	◎	○	○
		LC0	0	49	E	b	67	M	子どもの健康と安全	H1	◎	○	○
		LC0	0	37	L	b	41	L	乳児保育Ⅰ	H1	◎	○	○
		LC0	0	37	E	c	11	L	保育内容演習（健康）Ⅰ	H1T1	◎	◎	○
		LC0	0	37	E	c	21	L	保育内容演習（人間関係）Ⅰ	H1T1	◎	◎	○
		LC0	0	37	E	c	31	M	保育内容演習（環境）Ⅰ	H1T1	◎	◎	○
		LC0	0	37	E	c	41	L	保育内容演習（言葉）Ⅰ	H1T1	◎	◎	○
		LC0	0	37	E	c	51	L	保育内容演習（表現）AⅠ	H1T1	◎	◎	○
		LC0	0	37	E	c	52	L	保育内容演習（表現）BⅠ	H1T1	◎	◎	○
		LC0	0	37	L	d	01	L	中学国語科教育法Ⅰ	T4	○	◎	◎
		LC0	0	81	L	d	41	L	日本語史	T4	◎	○	○
		LC0	0	91	L	d	22	L	日本文学史Ⅱ	T4	◎	○	○
LC0	0	37	E	e	51	H	保育実習指導ⅠA	H1	◎	◎	○		
2・3		UA0	0	11	L	2	01	L	哲学の方法		◎	○	○
		UA0	0	91	L	2	03	L	文学の表現と鑑賞		◎	◎	○
		UA0	0	29	L	2	08	L	生活と地理		◎	○	○
		UA0	0	76	E	3	01	L	音楽		◎	◎	○
		UA0	0	85	E	4	11	M	中級フランス語		◎	◎	○
		UA0	0	82	E	4	14	M	中級中国語		◎	◎	○
2	通年	LC0	0	37	E	b	25	M	音楽演習Ⅱ	T3	○	◎	○
		LC0	0	37	E	b	26	L	体育演習	T3	○	◎	○
		LC0	0	83	E	b	27	L	外国語（英語）演習Ⅱ	T3	◎	◎	○
		LC0	0	37	E	b	52	M	幼児理解の理論と方法	H1T1	◎	◎	○
		LC0	0	37	E	c	01	L	子どもの科学実験指導法		◎	◎	○
		LC0	0	37	E	c	61	L	保育内容の理解と方法（身体表現）	H1	◎	◎	○
		LC0	0	37	E	c	64	M	保育内容の理解と方法（音楽表現）Ⅱ	H1	◎	◎	○
		LC0	0	37	T	e	01	H	介護等体験	T3T4	○	◎	◎
	後期	UA0	0	83	E	4	04	M	Advanced English 2		◎	○	○
		UA0	0	83	E	4	08	M	総合英語 B-2		◎	○	○
		LC0	0	37	L	a	21	L	道徳教育の理論と方法	T3T4	○	◎	
		LC0	0	37	E	a	23	L	ICT活用の理論と方法	T3T4	◎	◎	○

学年	期	ナンバリング						科目名	資格コード	①	②	③			
2	後期	LC0	0	37	L	a	14	L	特別支援教育論	H1T1T3T4	◎	○	○		
		LC0	0	37	E	a	33	M	実践課題研究Ⅱ		○	○	◎		
		LC0	0	36	L	a	44	M	子ども家庭福祉Ⅰ	H1	◎	○	○		
		LC0	0	41	L	b	73	L	専門基礎科目Ⅲ（数学系）		◎	○	○		
		LC0	0	43	E	b	14	L	理科C	T3	◎	○	○		
		LC0	0	37	L	b	01	L	特別活動の理論と方法	T3T4	◎	◎	○		
		LC0	0	37	E	b	42	M	乳児保育Ⅱ	H1	◎	○	○		
		LC0	0	37	E	c	12	L	保育内容演習（健康）Ⅱ	H1T1	◎	◎	○		
		LC0	0	37	E	c	22	L	保育内容演習（人間関係）Ⅱ	H1T1	◎	◎	○		
		LC0	0	37	E	c	32	M	保育内容演習（環境）Ⅱ	H1T1	◎	◎	○		
		LC0	0	37	E	c	42	L	保育内容演習（言葉）Ⅱ	H1T1	◎	◎	○		
		LC0	0	37	E	c	53	M	保育内容演習（表現）AⅡ	H1T1	◎	◎	○		
		LC0	0	37	E	c	54	M	保育内容演習（表現）BⅡ	H1T1	◎	◎	○		
		LC0	0	37	L	d	02	L	中学国語科教育法Ⅱ	T4	○	◎	◎		
		LC0	0	81	L	d	12	L	日本語学研究	T4	◎	○	○		
		LC0	0	91	L	d	32	L	日本の文学Ⅰ	T4	◎	○	○		
		LC0	0	81	L	d	46	L	漢字表現	T4	◎	◎	○		
		LC0	0	80	E	d	53	L	日本語スピーチクリニック		◎	◎	○		
		2・3		LC0	0	37	L	e	12	H	教育実習指導（幼）Ⅱ	T1	◎	◎	○
				LC0	0	37	E	e	53	H	保育実習指導ⅠB	H1	◎	◎	○
UA0	0			21	L	2	04	L	歴史に学ぶ		◎	○	○		
UA0	0			41	L	2	09	L	数学の世界		◎	○	○		
3	前期	LC0	0	37	L	a	15	L	教育課程論	T1T3T4	◎	○			
		LC0	0	37	L	a	43	M	保育の計画と評価	H1	◎	○	○		
		LC0	0	36	L	a	42	L	社会福祉Ⅰ	H1	◎	○	○		
		LC0	0	37	E	b	91	M	造形演習	H1	○	◎	◎		
		LC0	0	37	L	b	28	M	家庭	T3	◎	○	○		
		LC0	0	37	E	b	54	M	子どもの理解と援助	H1T1	◎	◎	○		
		LC0	0	36	E	b	66	M	子育て支援	H1	◎	○	○		
		LC0	0	37	L	d	03	L	中学国語科教育法Ⅲ	T4	○	◎	◎		
		LC0	0	81	L	d	13	M	日本語学講義	T4	◎	○	○		
		LC0	0	81	L	d	42	M	日本語文法論	T4	◎	○	○		
	通年		LC0	0	91	L	d	33	M	日本の文学Ⅱ	T4	◎	○	○	
			LC0	0	37	L	e	31	H	教育実習指導（小）	T3	◎	◎	○	
			LC0	0	37	L	e	21	H	教育実習指導（幼・小）	T1T3	◎	◎	○	
			LC0	0	37	L	e	11	H	教育実習指導（幼）Ⅰ	T1	◎	◎	○	
			LC0	0	37	T	e	14	H	教育実習（幼）Ⅱ	T1	○	◎	◎	
			LC0	0	37	T	e	52	H	保育実習ⅠA	H1	○	◎	◎	
			LC0	0	37	T	e	54	H	保育実習ⅠB	H1	○	◎	◎	
			LC0	0	37	T	e	56	H	保育実習Ⅱ	H1	○	◎	◎	
			LC0	0	37	E	e	55	H	保育実習指導Ⅱ	H1	◎	◎	○	
			LC0	0	49	E	b	65	M	子どもの食と栄養	H1	◎	○	○	
通年		LC0	0	37	E	b	55	M	障害児保育	H1T1	◎	○	○		
		LC0	0	37	E	c	71	M	国語科教育法（書写を含む）	T3	○	◎	◎		
		LC0	0	37	E	c	72	M	外国語科教育法	T3	○	◎	◎		
		LC0	0	37	E	c	73	M	社会科教育法	T3	○	◎	◎		
		LC0	0	37	E	c	74	L	算数科教育法	T3	○	◎	◎		
		LC0	0	37	E	c	75	M	理科教育法	T3	○	◎	◎		
		LC0	0	37	E	c	81	M	生活科教育法	T3	○	◎	◎		
		LC0	0	37	E	c	82	M	音楽科教育法	T3	○	◎	◎		
		LC0	0	37	E	c	83	M	図画工作科教育法	T3	○	◎	◎		
		LC0	0	37	E	c	84	M	家庭科教育法	T3	○	◎	◎		
通年		LC0	0	37	E	c	85	M	体育科教育法	T3	○	◎	◎		
		LC0	0	37	E	c	10	M	保育内容演習（遊びと文化）	H1	◎	◎	○		
LC0	0	83	E	f	11	M	外国語（英語）演習Ⅲ		◎	◎	○				

学年	期	ナンバリング						科目名	資格コード	①	②	③	
3	後期	LC0	0	37	E	a	22	L	教育の方法と技術	T1T3T4	◎	◎	○
		LC0	0	37	L	a	16	M	教育史	H1T1T3T4	◎	○	○
		LC0	0	37	L	a	46	M	保育原理Ⅱ	H1	◎	○	○
		LC0	0	36	L	a	47	L	社会福祉Ⅱ	H1	◎	○	○
		LC0	0	37	L	b	03	M	教育相談（カウンセリングを含む）	T1T3T4	◎	◎	○
		LC0	0	41	L	b	15	L	算数	T1T3	◎	○	○
		LC0	0	37	L	d	04	L	中学国語科教育法Ⅳ	T4	○	◎	◎
		LC0	0	81	E	d	14	M	日本語学演習	T4	◎	◎	○
		LC0	0	37	L	e	41	H	教育実習指導（中）	T4	◎	◎	○
		LC0	0	37	T	e	32	H	教育実習（小）	T3	○	◎	◎
		LC0	0	37	T	e	22	H	教育実習（幼・小）	T1T3	○	◎	◎
		LC0	0	37	T	e	13	H	教育実習（幼）Ⅰ	T1	○	◎	◎
		LC0	0	37	E	e	02	M	教育内容演習Ⅰ		◎	◎	○
		LC0	0	00	E	e	61	H	卒業論文演習Ⅰ		◎	◎	○
		LC0	0	37	T	e	54	H	保育実習ⅠB	H1	○	◎	◎
		LC0	0	37	T	e	56	H	保育実習Ⅱ	H1	○	◎	◎
		LC0	0	37	E	e	55	H	保育実習指導Ⅱ	H1	◎	◎	○
		LC0	0	37	E	e	57	H	保育実習指導Ⅲ	H1	◎	◎	○
		LC0	0	37	E	e	05	L	幼児保育総合演習Ⅰ		◎	◎	○
		LC0	0	36	L	f	21	M	異文化理解論		◎	○	◎
4	前期	LC0	0	37	L	a	02	M	保育原理Ⅱ	H1T1T3T4	◎	○	○
		LC0	0	37	L	a	17	M	教育制度論	T1T3T4	◎	○	○
		LC0	0	37	L	b	04	M	生徒指導論	T3T4	◎	◎	○
		LC0	0	37	E	b	16	M	書道	T3	◎	◎	○
		LC0	0	30	L	b	17	L	社会A	T3	◎	○	○
		LC0	0	30	L	b	18	L	社会B	T3	◎	○	○
		LC0	0	37	E	b	92	M	音楽演習Ⅲ	H1	○	◎	○
		LC0	0	37	L	b	29	M	体育	T1T3	◎	◎	○
		LC0	0	37	L	b	02	M	総合的学習の理論と方法	T3T4	◎	◎	○
		LC0	0	36	L	b	68	M	子ども家庭支援論	H1	◎	○	○
		LC0	0	37	L	d	43	M	作文指導論	T4	◎	○	○
		LC0	0	91	E	d	34	M	日本文学演習	T4	◎	◎	○
		LC0	0	92	L	d	47	M	漢文学	T4	◎	○	○
		LC0	0	81	L	d	54	M	日本語文章論		◎	○	○
		LC0	0	37	T	e	42	H	教育実習（中）	T4	○	◎	◎
		LC0	0	37	E	e	03	M	教育内容演習Ⅱ		○	◎	◎
		LC0	0	36	T	e	04	H	社会活動実習		○	◎	◎
	LC0	0	00	E	e	62	H	卒業論文演習Ⅱ		◎	◎	○	
	LC0	0	37	T	e	58	H	保育実習Ⅲ	H1	○	◎	◎	
	LC0	0	37	E	e	06	M	幼児保育総合演習Ⅱ		◎	◎	○	
通年	LC0	0	36	L	a	45	M	子ども家庭福祉Ⅱ	H1	◎	○	○	
	LC0	0	14	E	b	06	M	臨床心理学	H1	◎	◎	○	
	LC0	0	00	E	e	64	H	卒業論文		◎	◎	◎	
後期	LC0	0	37	L	a	18	M	教育社会学	T1T3T4	◎	○		
	LC0	0	37	L	b	05	M	進路指導論	T3T4	◎	◎	○	
	LC0	0	37	E	b	81	M	保育・教職実践演習（幼・小・中）	H1T1T3T4	◎	◎	◎	
	LC0	0	37	E	b	56	L	保育内容総論Ⅱ	H1	◎	○	○	
	LC0	0	37	L	d	44	M	読書指導論	T4	◎	◎	○	
	LC0	0	90	L	d	55	M	比較文学		◎	○	○	
	LC0	0	00	E	e	63	H	卒業論文演習Ⅲ		◎	◎	○	
	LC0	0	83	E	f	12	M	外国語（英語）演習Ⅳ		◎	◎	○	

児童教育学科カリキュラムツリー

- (1) *印の科目はいずれかの学年で履修できる。
- (2) 科目名に記載の①②③は①DP1、②DP2、③DP3を示す。
- (3) 科目名が太字：必修科目、資格関連科目については、教免必修科目▲、中免必修科目◆、中免選択科目◇、小免必修科目●、小免選択科目○、幼免必修科目■、幼免選択科目□、保育士必修科目★、保育士選択科目☆と表記する。
- (4) 資格関連科目についてはP24～P36を参照のこと。

ツリーの見方

科目分類	1年		2年		3年		4年		到達目標	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
人間形成	③建学のころ	①総合女性学* ①キャリア入門*	①総合女性学* ①キャリア入門*	①総合女性学* ①キャリア入門*	①国際事情* ①一般化学* ①生命のしくみ* ①地球環境と人間*	①総合女性学* ①キャリア入門*			・人間形成、一般教育、芸術、外国語、情報・表現、体育・健康科目から幅広い視野に立った豊かな人間性を身に付ける。 ・専門科目の学修の基礎作りとなる知識や技能を身に付ける。	
	①国際事情* ①一般化学* ①生命のしくみ* ①地球環境と人間*	①日本国憲法*▲ ①生活の物理* ①心のしくみ* ①地球環境と人間*	①国際事情* ①一般化学* ①生命のしくみ* ①地球環境と人間*	①生活の物理* ①心のしくみ* ①地球環境と人間*	①哲学の方法* ①生活と地理* ②文学の表現と鑑賞*	①歴史に学ぶ* ①数学の世界*				
全学共通	①初年次セミナー	①初年次演習	②音楽*	②書道* ②美術*	②音楽* ②書道* ②美術*	②書道* ②美術*				
外国語	①Basic English1 ▲ ①総合英語A-1 ▲★ ②初級フランス語1 *	①Basic English2 ▲ ①総合英語A-2 ▲★ ②初級フランス語2 *	①Advanced English 1 ①総合英語B-1 ②初級フランス語1 *	①Advanced English 2 ①総合英語B-2 ②初級フランス語2 *	①哲学の方法* ①生活と地理* ②文学の表現と鑑賞*	②中級フランス語*	②中級中国語*			
	②初級中国語1* ①情報処理演習1 ▲★ ②日本語表現法1 ◆ ①健康科学* ②スポーツ1 *▲☆	②初級中国語2* ①情報処理演習2 ▲★ ②日本語表現法2 ◆ ①健康科学* ②スポーツ2 *▲☆	②中級フランス語* ②初級中国語1* ②中級中国語*	②初級中国語2* ②中級中国語*	②音楽* ②書道* ②美術*	②中級フランス語* ②中級中国語*	②中級中国語*			
情報・表現	①情報処理演習1 ▲★ ②日本語表現法1 ◆ ①健康科学* ②スポーツ1 *▲☆	①情報処理演習2 ▲★ ②日本語表現法2 ◆ ①健康科学* ②スポーツ2 *▲☆	①健康科学* ②スポーツ1 *▲☆	②スポーツ2 *▲☆						
教育と保育の基礎となる科目	①教育原理 I ◆●■★	①教職入門 ◆●■	①教師論 ◆●□★ ①教育心理学 ◆●■□★	②道徳教育の理論と方法 ◆● ①特別支援教育論 ◆●■□★ ②ICT活用の理論と方法 ◆●	①教育課程論 ◆●■ ①教育の方法と技術 ◆●■ ①教育史 ◆●□★	①教育原理 II ◆●□☆ ①教育制度論 ◆●□	①教育原理 II ◆●□☆ ①教育制度論 ◆●□	①教育社会学 ◆●□	・教育・保育及び教育者・保育者に関する基礎理論や研究のあり方を学び、専門家としての思考や判断の基礎を培う。	
	①保育原理 I ★ ②教育・保育基礎演習		①子ども家庭福祉 I ★ ③実践課題研究 I	③実践課題研究 II	①保育の計画と評価★	①保育の方法と技術 ◆●■ ①教育史 ◆●□★ ①社会福祉 II ☆ ①保育原理 II ☆	②子ども家庭福祉 II ☆			
教育と保育の理論に関する科目	①保育の心理学 □★	①理科A ○ ①生活 ●□	①理科B ○ ①国語 ●□	②特別活動の理論と方法 ◆● ①理科C ○	②子ども理解と鑑賞* ②子ども理解と鑑賞* ②子ども理解と鑑賞* ②子ども理解と鑑賞*	②子ども理解と鑑賞* ②子ども理解と鑑賞* ②子ども理解と鑑賞* ②子ども理解と鑑賞*	②子ども理解と鑑賞* ②子ども理解と鑑賞* ②子ども理解と鑑賞* ②子ども理解と鑑賞*	②子ども理解と鑑賞* ②子ども理解と鑑賞* ②子ども理解と鑑賞* ②子ども理解と鑑賞*	・教育・保育に関する理論とその内容を深く学び、教育・保育実践のあり様と関連付けながら、教育者・保育者としての思考力・判断力・表現力等を培う。	

<p>教育と保育の理論と内容に関する科目</p>	<p>①社会的養護 I ★ → ①幼児と健康 ■ ①幼児と人間関係 ■ ①幼児と環境 ■ ①子どもの保健 ★ ①幼児と表現 ■ ②音楽演習 I ○ ③基礎造形 □ ②外国語(英語)演習 I ● ①専門基礎科目 I (理科系) →</p>	<p>①社会的養護 II ★ → ①乳児保育 I ★ → ①子どもの健康と安全 ★ ②音楽演習 II ○ ③体育演習 ○ ②外国語(英語)演習 II ● ①専門基礎科目 II (数学系) →</p>	<p>①子育て支援 ★ ①障害児保育 □ ★ ①子どもの食と栄養 ★ ②造形演習 ☆</p>	<p>①子ども家庭支援論 ★ ②臨床心理学 ☆ ②音楽演習 III ☆</p>	<p>・教育・保育に関する理論とその内容を深く学び、教育・保育実践のあり様と関連付けながら、教育者・保育者としての思考力・判断力・表現力等を培う。 ・教育・保育の専門的知識・理論と関連づけながら、子どもの成長に寄与する職能人として求められる実践的な指導法や表現技術を習得する。</p>
<p>教育と保育の実践を支える科目</p>	<p>②保育内容演習(健康) II ■ ★ ②保育内容演習(人間関係) II ■ ★ ②保育内容演習(環境) II ■ ★ ②保育内容演習(言葉) II ■ ★ ②保育内容演習(表現) A II ■ ★ ②保育内容演習(表現) B II ■ ★ ②子どもの科学実験指導法 ②保育内容の理解と方法(音楽表現) II ☆ ②保育内容の理解と方法(身体表現) ★</p>	<p>②保育内容演習(健康) II ■ ★ ②保育内容演習(人間関係) II ■ ★ ②保育内容演習(環境) II ■ ★ ②保育内容演習(言葉) II ■ ★ ②保育内容演習(表現) A II ■ ★ ②保育内容演習(表現) B II ■ ★ ②子どもの科学実験指導法 ②保育内容の理解と方法(音楽表現) II ☆ ②保育内容の理解と方法(身体表現) ★</p>	<p>③国語科教育法(書写を含む) ● ③外国語科教育法 ● ③社会科教育法 ● ③算数科教育法 ● ③理科教育法 ● ③生活科教育法 ● ③音楽科教育法 ● ③図画工作科教育法 ● ③家庭科教育法 ● ③体育科教育法 ● ②保育内容演習(遊びと文化) ☆</p>	<p>①作文指導論 ◇ ②日本文学演習 ◇ ①漢文学 ◆ ①日本語文論 ◆ ③社会活動実習</p>	<p>・国語教育を支える理論や知識について学びを深め、その重要性を理解し、教育実践のあり様と関連付けながら、教育者としての思考力・判断力・表現力等を培う。 ・教育・保育の専門的知識・理論と関連づけながら、子どもの成長に寄与する職能人として求められる実践的な指導法や表現技術を習得する。</p>
<p>国語教育を支える科目</p>	<p>③中学国語科教育法 I ◆ ①日本語史 ◆ ①日本文学史 II ◆ ②書道(筆写中心とする) ◆ ②コミュニケーション論 ◆</p>	<p>③中学国語科教育法 II ◆ ①日本語学講義 ◆ → ①日本語文法論 ◆ ①日本の文学 I ◇ → ②漢学表現 ◇ ②日本語スピーチクニク</p>	<p>③中学国語科教育法 II ◆ ①日本語学講義 ◆ → ①日本語文法論 ◆ ①日本の文学 I ◇ → ②漢学表現 ◇ ②日本語スピーチクニク</p>	<p>①作文指導論 ◇ ②日本文学演習 ◇ ①漢文学 ◆ ①日本語文論 ◆ ③社会活動実習</p>	<p>・国語教育を支える理論や知識について学びを深め、その重要性を理解し、教育実践のあり様と関連付けながら、教育者としての思考力・判断力・表現力等を培う。 ・教育・保育の専門的知識・理論と関連づけながら、子どもの成長に寄与する職能人として求められる実践的な指導法や表現技術を習得する。</p>
<p>実地教育に関わる科目</p>	<p>③介護等体験 ● ● ②保育実習指導 I A ★ ②保育実習指導 I B ★</p>	<p>③介護等体験 ● ● ②保育実習指導(幼) I □ ②保育実習指導(幼) II □ ②保育実習指導 I A ★ ②保育実習指導 I B ★</p>	<p>②教育内容演習 I ○ ③教育実習(小) ○ ③教育実習(幼) ○ □ ②教育実習指導(幼) I □ ②教育実習指導(幼) II □ ③保育実習 I A ★ ③保育実習 I B ★ ③保育実習 II ★ ③保育実習 II ★ ①保育実習指導 II ☆ ②幼児保育総合演習 I ②卒業論文演習 I ③卒業論文</p>	<p>③教育内容演習 II ◆ ③教育実習(中) ◆ ③保育実習 III ☆ ③幼児保育総合演習 II ②卒業論文演習 II ③卒業論文</p>	<p>・教育・保育に関する専門的知識・技術を習得し、等における経験と結びつけ、教育・保育の専門家としての学びを深める。 ・教育・保育の実践をより深く知ることで、主体性や協働性を大切にしながら創造的かつ協働的に問題に向き合うことの重要性を学ぶ。</p>
<p>初等英語教育を支える科目</p>	<p>③海外スクールインターンシップ ③海外語学実習</p>	<p>②外国語(英語)演習 III ③異文化理解論</p>	<p>②外国語(英語)演習 III ③異文化理解論</p>	<p>②外国語(英語)演習 IV ③卒業論文</p>	<p>・異文化理解の重要性を理解し、諸外国の言語や文化、コミュニケーションを学ぶことで、より豊かな人間性や社会性を培う。</p>

DP① 知識・理解

DP② 思考力・判断力・表現力

DP③ 主体性・多様性・協働性

DPの科目別目標はカリキュラムマップを参照

Ⅵ. 免許・資格

1. 教員免許状

〔1〕 文学部児童教育学科で教員免許状授与の所要資格を取得できる免許状は次のとおりです。

学 科	免 許 状 の 種 類
児 童 教 育 学 科	中学校教諭一種免許状（国語） 小学校教諭一種免許状 幼稚園教諭一種免許状

〔2〕 教員免許状を取得するためには、大学を卒業し（学士の学位を有し）、「教育職員免許法及び同法施行規則」に定められた科目を履修し、所定の単位数を修得しなければなりません。

- 1) 免許状の種類にかかわらず「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作」について、それぞれ2単位以上を修得しなければなりません。（26ページ、表1）
- 2) 法により免許状の種類ごとに「教科及び教職に関する科目」の最低修得単位数がそれぞれ規定されています。（下表）

免 許 状 の 種 類	基 礎 資 格	「教科及び教職に関する科目」の最低修得単位数			
		教科及び教科の指導法に関する科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目等	大学が独自に設定する科目
中学校教諭一種免許状	学士の学位を有すること	28	/	27	4
小学校教諭一種免許状		30		27	2
幼稚園教諭一種免許状			16	21	14

（注）この表で示しているのは、法規上の最低修得単位数です。本学で必要とする単位数は27ページ以降の各表に示してあります。

免許状の種類ごとの履修方法を、中学校・小学校・幼稚園（表2-1～2-7）に載せていますので、それに基づいて必要な科目及び単位数を修得してください。

〔3〕 その他

1) 教育実習の履修について

教育実習の単位修得には、「学校現場における実習」（中学校4単位、小学校4単位、幼稚園4単位）と「事前及び事後の指導」（1単位）が必要です。

事前及び事後の指導の授業科目として、「教育実習指導」を開講しています。その授業内容は次のとおりです。

1. 事前指導

- (1) オリエンテーション

- (2) 教育実習の心得
- (3) 教科指導能力の向上
- (4) 生徒指導能力の向上

2. 事後指導

- (1) 実習記録の整理、報告書作成指導（実習終了後1週間以内）
- (2) 教育実習報告会での反省と自己評価

教育実習校の決定にあたっては、学科の指導に従ってください。なお実習校決定後はその変更はできません。また成績が著しく不振な場合は、実習が認められないことがあります。

実習にあたっては、本学及び実習校の指示に従わなくてはなりません。もしもその指示に反した場合には、実習を中止させられることがあります。教育実習を履修する学生は、教育実習にかかる経費が必要となります。

2) 教員免許状の授与申請について

1. 介護等の体験

中学校・小学校の教員免許状の授与を受けようとする者は、特別支援学校及び社会福祉施設等その他文部科学省令で定められた施設において7日以上障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行い、その証明書が必要です。

介護等の体験を希望する者は、体験の事前指導を受けるとともに、介護等の体験にかかる経費が必要となります。

2. 申請手続

教員免許状は、本学で一括して申請し、卒業式当日に渡します。それに必要な諸経費を所定の期間内に納めなくてはなりません。

〔教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目〕

(表1)

免許法施行規則第66条の6に定める科目区分		本学における開設科目	単位数	授業形態	週 時 間 数								
科 目	最低修得単位数				1 年		2 年		3 年		4 年		
					前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	
日 本 国 憲 法	2	○ 日 本 国 憲 法	2	講義		2		2					
体 育	2	○ ス ポ ー ツ 1	1	実技	2		2						
		○ ス ポ ー ツ 2	1	実技		2		2					
外国語コミュニケーション	2	◎ Basic English 1	1	演習	2								
		◎ Basic English 2	1	演習		2							
		◎ 総 合 英 語 A - 1	1	演習	2								
		◎ 総 合 英 語 A - 2	1	演習		2							
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	○ 情 報 処 理 演 習 1	1	演習	2								
		○ 情 報 処 理 演 習 2	1	演習		2							
備 考	1. ◎印は、卒業必修科目 2. ○印は、免許必修科目												

中一種免(国語)〔教科及び教科の指導法に関する科目〕

児童教育学科
(表2-1)

教員免許状
(教科、教科又は教職)

免許法施行規則に定める科目区分等		中学校教諭一種免許状				
科 目	最低修得 単位数	本学における開設科目	単位数		配当学年	備 考
			必	選		
国 語 学 (音声言語及び文章表現 に関するものを含む。)	1単位以上	日本語学概論(日本語音声学を含む)	2		1年前	
		日本語学研究		2	2年後	
		日本語学講義	2		3年前	
		日本語学演習		2	3年後	
		日本語史	2		2年前	
		日本語文法論		2	3年後	
		日本語表現法 1	1		1年前	
		日本語表現法 2	1		1年後	
		作文指導論		2	4年前	
		読書指導論		2	4年後	
国 文 学 (国文学史を含む。)	1単位以上	日本文学概論	2		1年前	
		日本文学史Ⅰ	2		1年後	
		日本文学史Ⅱ	2		2年前	
		(日本の文学Ⅰ 日本の文学Ⅱ)		2	2年後	いずれかの科目を 選択必修
		2	3年前			
		2	4年前			
			2	4年前		
漢 文 学	1単位以上	漢字表現		2	2年後	
		漢文学	2		4年前	
書道(書写を中心とする。)	1単位以上	書道(書写を中心とする)	2		1年後	
各教科の指導法 (情報通信技術の 活用を含む。)	1単位以上	中学国語科教育法Ⅰ	2		2年前	
		中学国語科教育法Ⅱ	2		2年後	
		中学国語科教育法Ⅲ	2		3年前	
		中学国語科教育法Ⅳ	2		3年後	
合 計		必修を含めて28単位以上修得すること				

免許法施行規則に定める科目区分等			中学校教諭一種免許状				
科目	各科目に含める必要事項	最低修得単位数	本学における開設科目	単位数		配当年	備考
				必	選		
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理Ⅰ	2		1年後	
			教育原理Ⅱ		2	4年前	
			教育史		2	3年後	
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教師論	2		2年前	
			教職入門	2		1年後	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		(教育制度論)		2	4年前	いずれかの科目を選択必修
			(教育社会学)		2	4年後	
幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2		2年前			
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育論	2		2年後			
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2		3年前			
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	10	道徳教育の理論と方法	2		2年後	
	総合的な学習の時間の指導法		総合的な学習の理論と方法	2		4年前	
	特別活動の指導法		特別活動の理論と方法	2		2年後	
	教育の方法及び技術		教育の方法と技術	1		3年後	
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		ICT活用の理論と方法	1		2年後	
	生徒指導の理論及び方法		生徒指導論	2		4年前	
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談(カウンセリングを含む)	2		3年後	
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		進路指導論	2		4年後	
教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習(中)	4		4年前	
			教育実習指導(中)	1		3年後	
	教職実践演習	2	保育・教職実践演習(幼・小・中)	2		4年後	

〔大学が独自に設定する科目〕

最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、合わせて4単位以上を修得してください。

小一種免〔教科及び教科の指導法に関する科目〕

児童教育学科
(表2-3)

教員免許状
(教科、教科又は教職)

免許法施行規則に定める科目区分等			小学校教諭一種免許状				
科 目	各科目に含める必要事項	最低 修得 単位数	本学における開設科目	単位数		配 当 学 年	備 考
				必	選		
教科に関する 専門事項	国 語 (書写を含む。)	30	国語 書道	2 1		2年前 4年前	
	社 会		(社会A 社会B		2 2	4年前 4年前	いずれかの科目を選択必修
	算 数		算数	2		3年後	
	理 科		(理科A 理科B 理科C		2 1 1	1年後 2年前 2年後	いずれかの科目を2単位以上選択必修
	生 活		生活	2		1年後	
	音 楽		(音楽演習Ⅰ 音楽演習Ⅱ		2 2	1年通 2年通	いずれかの科目を選択必修
	図画工作		基礎造形	2		1年通	
	家 庭		家庭	2		3年前	
	体 育		(体育 体育演習		2 2	4年前 2年通	いずれかの科目を選択必修
	外国語		外国語(英語)演習Ⅰ 外国語(英語)演習Ⅱ	2 2		1年通 2年通	
各教科の指導法 (情報通信技術 の活用を含む。)	国 語 (書写を含む。)		国語科教育法(書写を含む)	2		3年通	
	社 会		社会科教育法	2		3年通	
	算 数		算数科教育法	2		3年通	
	理 科		理科教育法	2		3年通	
	生 活		生活科教育法	2		3年通	
	音 楽		音楽科教育法	2		3年通	
	図画工作		図画工作科教育法	2		3年通	
	家 庭		家庭科教育法	2		3年通	
	体 育		体育科教育法	2		3年通	
	外国語		外国語科教育法	2		3年通	

小一種免〔教育の基礎的理解に関する科目等〕

児童教育学科
(表2-4)

教員免許状
(教職)

免許法施行規則に定める科目区分等			小学校教諭一種免許状			備考
科目	各科目に含める必要事項	最低修得単位数	本学における開設科目		配当学年	
			必	選		
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理Ⅰ	2	1年前	いずれかの科目を選択必修
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教育原理Ⅱ	2	4年前	
			教育史	2	3年後	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教師論	2	2年前	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教職入門	2	1年後	
			特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	(教育制度論)	2	
教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育社会学	2	4年後			
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	10	教育心理学	2	2年前	
	総合的な学習の時間の指導法		特別支援教育論	2	2年後	
	特別活動の指導法		教育課程論	2	3年前	
	教育の方法及び技術		道徳教育の理論と方法	2	2年後	
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		総合的学習の理論と方法	2	4年前	
	生徒指導の理論及び方法		特別活動の理論と方法	2	2年後	
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育の方法と技術	1	3年後	
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		ICT活用の理論と方法	1	2年後	
教育実践に関する科目	教育実習	5	生徒指導論	2	4年前	小中履修モデル
			教育相談(カウンセリングを含む)	2	3年後	
	教職実践演習	2	4年後	小幼履修モデル		
			進路指導論	2	4年後	
			教育実習(小)	4	3年後	
			教育実習指導(小)	1	3年前	
			教育実習(幼・小)	4	3年後	
			教育実習指導(幼・小)	1	3年前	
			保育・教職実践演習(幼・小・中)	2	4年後	

〔大学が独自に設定する科目〕

児童教育学科

最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、合わせて2単位以上を修得してください。

幼一種免〔領域及び保育内容の指導法に関する科目〕

児童教育学科
(表2-5)

教員免許状
(教科・教科又は教職)

免許法施行規則に定める科目区分等			幼稚園教諭一種免許状				
科 目	各科目に含める必要事項	最低 修得 単位数	本学における開設科目	単位数		配当 学年	備 考
				必	選		
領域に関する 専門的事項	健康	16	幼児と健康	1		1年後	
	人間関係		幼児と人間関係	1		1年後	
	環境		幼児と環境	1		1年後	
	言葉		幼児と言葉	1		1年後	
	表現		幼児と表現	1		1年後	
保育内容の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)			保育内容総論Ⅰ	1		1年前	
			保育内容演習(健康)Ⅰ	1		2年前	
			保育内容演習(健康)Ⅱ	1		2年後	
			保育内容演習(人間関係)Ⅰ	1		2年前	
			保育内容演習(人間関係)Ⅱ	1		2年後	
			保育内容演習(言葉)Ⅰ	1		2年前	
			保育内容演習(言葉)Ⅱ	1		2年後	
			保育内容演習(環境)Ⅰ	1		2年前	
			保育内容演習(環境)Ⅱ	1		2年後	
			保育内容演習(表現)AⅠ	1		2年前	
			保育内容演習(表現)AⅡ	1		2年後	
			保育内容演習(表現)BⅠ	1		2年前	
		保育内容演習(表現)BⅡ	1		2年後		

免許法施行規則に定める科目区分等			幼稚園教諭一種免許状				
科 目	各科目に含める必要事項	最低 修得 単位数	本学における開設科目	単位数		配当 学年	備 考
				必	選		
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理Ⅰ 教育原理Ⅱ 教育史	2	2 2	1年前 4年前 3年後	
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)		教師論 教職入門	2	2	2年前 1年後	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		(教育制度論 教育社会学)		2 2	4年前 4年後	いずれかの科目を選択必修
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2		2年前	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育論	2		2年後	
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程論	2		3年前	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術(情報機器及び教材の活用を含む。)	4	教育の方法と技術	1		3年後	
	幼児理解の理論及び方法		幼児理解の理論と方法	2		2年通	
	教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談(カウンセリングを含む)	2		3年後	
教育実践に関する科目	教育実習	5	教育実習(幼)Ⅰ	4		3年後	幼保履修モデル
			教育実習指導(幼)Ⅰ	1		3年前	
			教育実習(幼・小)	4		3年後	小幼履修モデル
	教育実習指導(幼・小)	1		3年前			
教職実践演習	2	2		4年後	小・幼両方の免許を希望する場合は履修が必要		

幼一種免〔大学が独自に設定する科目〕

児童教育学科
(表2-7)

教員免許状
(教科・教科又は教職)

免許法施行規則に定める科目区分等	幼稚園教諭一種免許状			
科目	本学における開設科目	単位数		配当学年
		必	選	
大学が独自に設定する科目	保育の心理学		2	1年前
	子どもの理解と援助		1	3年前
	障害児保育		2	3年通
	保育内容の理解と方法(言語表現)		2	1年通
	基礎造形		2	1年通
	国語		2	2年前
	算数		2	3年後
	生活		2	1年後
	体育		2	4年前
備考	「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位を超えて履修した「領域及び保育内容の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、合わせて14単位以上を修得すること。			

2-1. 保育士資格

保育士資格について

児童教育学科では、児童福祉法に定められた保育士の資格を取得することができます。保育士とは、登録センターに登録をし、専門的知識及び技術をもって、児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者を指します。

保育士資格に必要な科目・単位数は大きく教養科目と指定科目に分けられます。

1) 教養科目 11単位以上

全学共通科目のうち保育士資格の教養科目として指定されている科目（総合英語A-1、総合英語A-2の2単位、情報処理演習1・2の2単位、健康科学2単位、スポーツ1・2から1単位）を含んで、11単位以上を履修しなければなりません。

2) 指定科目 74単位以上（35ページ）

3) 保育実習について

保育所保育を体験的に深く学ぶと共に、福祉施設における多様な保育が実践できる力を養うため、指定科目にあるすべての保育実習を必修（ただし、保育実習Ⅲは選択）としています。保育実習を履修する学生は、所定の単位を修得し、実習費用を納めなければなりません。

実習の種類	単位数	おおむねの実習日数	実習施設
保育実習ⅠA	2単位	10日間	A
保育実習ⅠB	2単位	10日間	B
保育実習指導ⅠA	1単位	—	—
保育実習指導ⅠB	1単位	—	—
保育実習Ⅱ	2単位	10日間	A
保育実習指導Ⅱ	1単位	—	—
保育実習Ⅲ	2単位	10日間	B
保育実習指導Ⅲ	1単位	—	—

*実習施設

A：保育所、幼保連携型認定こども園

B：乳児院、母子生活支援施設、児童養護施設、児童心理治療施設、児童自立支援施設、障害児入所施設、児童発達支援センター、障害者支援施設、指定障害福祉サービス事業所

保育士の資格を取得するための開設科目

(1) 教養科目11単位以上

教 養 科 目	(外国語科目 体育・健康科目 外国語科目、体育・健康科目以外の教養科目 (単位の修得方法等は、全学共通科目の表を参照)	講義 実技	2 単位以上	計11単位以上 ※建学のこころを除く
			2 単位 1 単位以上 6 単位以上	

(2) 指定科目74単位以上

系 列	開 設 科 目	授 業 形 態	保育士資格取得に必要な 修得単位数		配当学年	備 考
			必 修	選 択		
保育の本質・目的 に関する科目	保 育 原 理 I	講義	2		1 年前	選 択 科 目 か ら 9 単 位 以 上
	保 育 原 理 II	講義		2	3 年後	
	教 育 原 理 I	講義	2		1 年前	
	教 育 原 理 II	講義		2	4 年前	
	子 ども 家 庭 福 祉 I	講義	2		2 年後	
	子 ども 家 庭 福 祉 II	演習		2	4 年通	
	社 会 福 祉 I	講義	2		3 年前	
	社 会 福 祉 II	講義		2	3 年後	
	子 ども 家 庭 支 援 論	講義	2		4 年前	
	社 会 的 養 護 I	講義	2		1 年後	
	教 師 論	講義	2		2 年前	
	教 育 史	講義		2	3 年後	
特 別 支 援 教 育 論	講義		2	2 年後		
保育の対象の理解 に関する科目	保 育 の 心 理 学	講義	2		1 年前	
	子 ども 家 庭 支 援 の 心 理 学	講義	2		1 年後	
	子 ども の 理 解 と 援 助	演習	1		3 年前	
	子 ども の 保 健	講義	2		1 年前	
	子 ども の 食 と 栄 養	演習	2		3 年通	
	教 育 心 理 学	講義		2	2 年前	
	幼 児 理 解 の 理 論 と 方 法	演習		2	2 年通	
保育の内容・方法 に関する科目	臨 床 心 理 学	演習		2	4 年通	
	保 育 の 計 画 と 評 価	講義	2		3 年前	
	保 育 内 容 総 論 I	演習	1		1 年前	
	保 育 内 容 総 論 II	演習		1	4 年後	
	保 育 内 容 演 習 (健 康) I	演習	1		2 年前	
	保 育 内 容 演 習 (健 康) II	演習	1		2 年後	
	保 育 内 容 演 習 (人 間 関 係) I	演習	1		2 年前	
	保 育 内 容 演 習 (人 間 関 係) II	演習	1		2 年後	
	保 育 内 容 演 習 (環 境) I	演習	1		2 年前	
	保 育 内 容 演 習 (環 境) II	演習	1		2 年後	
	保 育 内 容 演 習 (言 葉) I	演習	1		2 年前	
	保 育 内 容 演 習 (言 葉) II	演習	1		2 年後	
	保 育 内 容 演 習 (表 現) A I	演習	1		2 年前	
	保 育 内 容 演 習 (表 現) A II	演習	1		2 年後	
	保 育 内 容 演 習 (表 現) B I	演習	1		2 年前	
	保 育 内 容 演 習 (表 現) B II	演習	1		2 年後	
	保 育 内 容 の 理 解 と 方 法 (音 楽 表 現) I	演習	2		1 年通	
	保 育 内 容 の 理 解 と 方 法 (音 楽 表 現) II	演習		2	2 年通	
保 育 内 容 の 理 解 と 方 法 (造 形 表 現)	演習	2		1 年通		
保 育 内 容 の 理 解 と 方 法 (身 体 表 現)	演習	2		2 年通		
保 育 内 容 の 理 解 と 方 法 (言 語 表 現)	演習	2		1 年通		

系 列	開 設 科 目	授 業 形 態	保育士資格取得に必要な 修得単位数		配当学年	備 考
			必 修	選 択		
保育の内容・方法 に関する科目	音 楽 演 習 Ⅲ	演 習		1	4 年前	選 択 科 目 か ら 9 単 位 以 上
	造 形 演 習	演 習		1	3 年前	
	乳 児 保 育 Ⅰ	講 義	2		2 年前	
	乳 児 保 育 Ⅱ	演 習	1		2 年後	
	子 ども の 健 康 と 安 全	演 習	1		2 年前	
	障 害 児 保 育	演 習	2		3 年通	
	社 会 的 養 護 Ⅱ	演 習	1		2 年前	
	子 育 て 支 援	演 習	1		3 年前	
	保育内容演習(遊びと文化)	演 習		2	3 年通	
保 育 実 習	保 育 実 習 Ⅰ A	実 習	2		3 年前	
	保 育 実 習 Ⅰ B	実 習	2		3 年前	
	保 育 実 習 Ⅱ	実 習	2		3 年前	
	保 育 実 習 指 導 Ⅰ A	演 習	1		2 年前	
	保 育 実 習 指 導 Ⅰ B	演 習	1		2 年後	
	保 育 実 習 指 導 Ⅱ	演 習	1		3 年前	
	保 育 実 習 Ⅲ	実 習		2	4 年前	
	保 育 実 習 指 導 Ⅲ	演 習		1	3 年後	
総 合 演 習	保育・教職実践演習(幼・小・中)	演 習	2		4 年後	
合 計			65	28		

Ⅶ. 履修の案内

1. 履修登録について

履修登録

みなさんは、自己の責任において、履修すべき授業科目を決定し、所定の期間内に登録の手続きを完了しなければなりません。登録を怠れば、当該年度における授業科目の履修の権利を放棄したことになります。

1. 履修登録は、年1回4月に行います。

各年度の履修登録に関しては、別途配付する「ポータルサイト操作マニュアル」にしたがってください。

2. 「履修確認」画面で必ず履修内容を確認してください。履修登録(後期科目)の修正が必要となった場合、後期登録修正期間内に修正を行うことができます。

1) 後期登録修正(9月):対象は後期科目のみです。

履修登録の留意点

1. 「授業計画(シラバス)」を熟読し、卒業要件、各種免許・資格に必要な科目、単位を確認して、履修計画を立ててください。

(注) 履修登録確定後に授業科目の受講を放棄した場合は、GPAに影響しますので注意してください。

2. 授業時間割で履修する科目の曜日・時限を確認し、履修登録しようとする科目が重複しないように注意してください。

3. 登録ミス、登録漏れのないように注意して登録してください。

4. 定員が設定されている抽選科目は、抽選後に必ず受講可能か確認してください。

[ポータルサイトURL] <https://portal.nagoya-wu.ac.jp/campusweb/top.do>

5. 履修登録確定後の授業科目の追加・変更及び放棄は原則として認められません。

6. 履修者が少ない授業科目は、不開講となることがあります。

7. 授業科目については、履修できる学年(配当学年)が決まっています。下級学年に配当されている授業科目は履修できますが、上級学年に配当されている授業科目は履修できません。なお、配当学年において、卒業必修科目を修得できなかった場合、次年度以降の該当科目の履修登録については、学生支援センター窓口での手続きが必要となります。

履修登録の上限設定

各学期・年間の履修登録をする際に、登録科目数(単位数)の上限を設定しています。履修登録科目数(単位数)の上限を設定することをCAP制といいます。

登録科目数(単位数)の上限設定により、多くの科目を広く浅く学修するのではなく、学修すべき授業の単位制度が実質化(1単位を取得するにあたって必要な学修時間45時間を確保)され、各年次にわたって適切に授業科目を履修でき、授業内容を深く身に付けられるようになります。

上限単位数の設定は、学科、学年により多少の違いがありますが、以下のとおりです。

学部	学 科	履修科目の上限単位数							
		1年次		2年次		3年次		4年次	
		前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
文学部	児童教育学科	49		49		49		49	

1. 上限単位数から除外する科目等

(1) 「大学、短大以外の教育施設等における学修」及び「入学前の既修得単位」の認定単位

(2) 全学共通科目:「建学のこころ」

(3) 児童教育学科専門科目

- ① 「卒業論文」
- ② 海外研修およびボランティア活動に関する科目
- ③ 学外実習・介護等体験に関する科目（実習指導を除く）

2. 集中講義科目、愛知学長懇話会における単位互換科目および名古屋女子大学短期大学部単位互換科目は当該開講学期に含めます。

3. 特に必要と学長が認めた学生は、上限単位数を超えて履修登録を認めることがあります。この場合の単位数は教授会で決定します。

4. 通年開講科目の単位は、前期・後期に等分して、各学期に配分します。

なお、年間で上限単位を定めている場合の、前期、後期ごとの履修単位数の配分については弾力的に扱います。学科の履修指導に従ってください。

1. 特別履修届の提出について

以下に該当する場合は、特別履修届を提出する必要があります。特別履修届は、学生支援センターにあります。

- ① 全学共通科目〔必修科目〕を他専攻で下級履修する場合
- ② 専門科目を他クラスで履修（あるいは下級履修）する場合
- ③ 振替を要する科目を履修する場合

2. 資格・免許の申請、取り消しについて

免許・資格申請の登録を履修登録期間中に履修登録画面の「資格申請」から必ず行ってください。また、登録した資格・免許を取り消す場合は、「免許・資格取消申請書」を提出してください。

申請書は、学生支援センターにあります。

2. 授業及び試験について

授 業

〔1〕 授業の開講形態

本学で開講される授業の開講形態は次のとおりです。

- 1) 通年開講……………1年間にわたって授業が行われます。
- 2) 半期開講……………前期あるいは後期の半年間原則として授業が行われます。
- 3) 集中講義……………上記の通年または半期科目のうち、教育上特別の必要があると認められる場合、あるいは特別の事情により毎週授業が行えない場合、夏期及び冬期の休業期間中またはその前後に短期間集中的に行われます。

〔2〕 授業時間割

学生ポータルサイトで確認ができます。また、学生支援センター前ホール掲示板にも掲示します。事情により授業時間割・教室を変更したときも学生ポータルサイト（教務掲示一覧）と掲示板でお知らせします。

〔3〕 授業・試験時間

本学の授業及び試験の時間は次のとおりです。

1・2限	9：00～10：30
3・4限	10：40～12：10
5・6限	13：00～14：30
7・8限	14：40～16：10
9・10限	16：20～17：50

〔4〕 休 講

本学の行事あるいは授業担当教員のやむを得ない理由により、授業を休講にすることがあります。

- 1) あらかじめわかっている休講は、学生支援センター前ホール掲示板に掲示します。
- 2) 休講掲示がなく、始業時間から30分以上経過しても授業担当教員が現れず、また何の連絡もない場合は学生支援センターに連絡をし、指示を受けてください。
- 3) 災害及び交通機関ストライキの場合

地震、台風等の災害や交通機関のストライキにより運行が中止された場合の授業、試験は、次のとおり取り扱います。

災害及び交通機関ストライキに係る発表・発令等		発表・発令等の時間	本学の講ずる措置
「南海トラフ地震臨時情報」の発表	「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震警戒)」が発表された場合	発表時	発表以降、大学から授業、試験再開の連絡があるまで休講
	南海トラフ地震臨時情報の「調査中」、「調査終了」、「巨大地震注意」が発表された場合であっても、平常通り授業、試験を実施します。		
「特別警報」または「暴風警報」の発令	名古屋市に発令された場合	午前6時現在発令されている場合	午前中休講
		午前10時現在発令されている場合	全日休講

交通ストライキ	名古屋市営の交通機関、名鉄、JRのいずれか一つの交通機関が交通ストライキを行った場合(その他の交通機関は平常通り授業、試験を実施する)	午前6時現在 ストが継続している場合	午前中休講
		午前10時現在 ストが継続している場合	全日休講
上記以外の場合において、授業、試験を実施することが困難であると予想される場合は、本学の防災本部、防災対策委員会の指示により休講措置等の判断を行います。			

次の場合は、上の表に準じて取り扱います。(授業、試験は実施されますが、出校できなかった場合は、学生支援センターで必要な手続きをすることにより欠席とはみなしません。)

- ① 名古屋市以外の居住者の居住区域、通学経路に「特別警報」または「暴風警報」が発令された場合
- ② 災害等により、交通機関が不通になった場合
- ③ 上の表以外の交通機関がストライキを行った場合

※上記①～③により受験できなかった期末試験科目については、学生支援センターで所定の手続きをすれば、追試験が受験できます。

〔5〕 補 講

休講のため規定の授業時間数に満たない場合には補講が行われます。

補講は次の方法で行います。

- 1) 指定された土曜日に実施します。補講日として指定された土曜日は、ポータルサイトの年間予定タブに掲載されている「学事カレンダー」で確認してください。
- 2) 授業期間中の空き時間に行います。
- 3) その他教員の指示がある場合には、それに従ってください。

補講の連絡は、学生支援センター前ホール掲示板に掲示します。

※学生ポータルサイトを利用して、授業時間割確認及び休講・補講・教室変更情報等を参照できます。また、メッセージ転送設定を設定すると登録されたアドレスに休講や補講等の情報が配信されます。使用方法は、「ポータルサイト操作マニュアル」を参照してください。

〔6〕 欠席・遅刻・早退

- 1) やむを得ない理由(試験欠席の理由に順ずる)で授業を欠席する場合は、所定の欠席届を授業担当教員に提出してください。
- 2) 授業の遅刻・早退に関する取り扱いは次のとおりです。
 - ① 授業開始時間に遅れた者は遅刻として取り扱います。
 - ② 授業終了まで受講していないものは早退として取り扱います。
 - ③ 遅刻及び早退は計3回をもって欠席1回とみなします。
 - ④ 1回の授業時間の3分の1以上(講義・演習科目は30分以上、実験・実習科目は45分以上)の遅刻及び早退は欠席として取り扱います。

試 験

〔1〕 試験の種類と方法

試験の種類は、「期末試験」「追試験」及び「再試験」があります。

試験は、「筆記」「レポート」「論文」「作品」「実技・実習」等の方法で実施されます。

〔2〕 期末試験

- 1) 期末試験には、前期末に行う前期試験、後期末に行う後期試験があります。
- 2) 期末試験は、前期開講科目については前期試験において、後期及び通年開講科目については後期試験において実施します。

〔3〕 追試験

- 1) 追試験は、次の授業科目について、やむを得ない理由で試験を欠席した者に対し、本学が指定する日に行います。
 - ① 期末試験を実施した授業科目
 - ② 期末試験に代えて授業担当教員が随時行う試験で、事前に学生支援センターに追試験期間中に実施する旨の申し出があった授業科目
- 2) レポート、作品等の方法で試験を実施した授業科目は追試験を実施しません。
- 3) 追試験を欠席した者に対し、再度追試験は実施しません。
- 4) 追試験の受験は欠席理由が以下のいずれかに該当し、指定された期日までに学生支援センターに所定の試験欠席届と、当該理由を証明するに足る書類の提出が必要です。①から⑦は提出書類の受理により追試験の受験が認められます。なお、⑧は教授会の議を経て学長が許可した場合に受験が認められます。

〔4〕 やむを得ない理由を証明する書類

	欠 席 理 由	提 出 書 類
①	親族の危篤、死亡	理由を証明する書類または写し
②	不慮の事故または災害	事故等を証明する書類
③	病気または負傷	医療機関発行の診断書
④	公共交通機関の事故または遅延	事故又は遅延証明書
⑤	学則第14条に定める資格を取得するために必要な校外実習	証明書不要
⑥	就職試験（会社訪問は除く）の受験	本学所定の受験証明書
⑦	期末試験受験科目の実施日時の重複	本学所定の試験重複届
⑧	その他①から⑦に準ずるものとして学長が認めたもの	理由を証明する書類

〔5〕 再試験

- 1) 再試験は、学生が期末試験を受験し、不合格となった授業科目について、前期開講科目は前期の再試験期間内において、後期および通年開講科目については後期の再試験期間内において実施します。なお、試験に代えた授業レポート、作品等の方法で試験を受験し不合格となった授業科目も再試験を実施する場合があります。
- 2) 願い出が遅れた場合は受験資格はありません。
- 3) 再試験を欠席した者に対して、その追試験は実施しません。また、追試験で不合格となった者に対して再試験は実施しません。ただし、卒業年次の学生で、追試験・再試験において、不合格となった授業科目が、必修科目および免許・資格（教員免許状、保育士の資格）の取得要件科目の場合は、前・後期ともに1科目に限り再試験を実施することがあります。
- 4) 校外実習（教育実習・保育実習）が不合格となった場合の再試験は実施しません。

〔6〕 追・再試験手続一覧

	追 試 験		再 試 験
	受験を希望する者	受験を許可された者	
提出書類	試験欠席届+証明書類	追試験申込書+追試験願出票	再試験申込書+再試験願出票
提出期限	指定された期日 (詳細日程は別途連絡)	所定の期間内 (詳細日程は別途連絡)	所定の期間内 (詳細日程は別途連絡)
出願科目数	上限なし		上限なし
提出先	学生支援センター		学生支援センター
受験手数料	1科目につき1,000円 (期末試験科目重複や校外実習による追試験は不要)		1科目につき2,000円

〔7〕 受験資格

次のいずれかに該当する場合は、受験資格がありません。

- 1) 履修登録をしていない授業科目。
- 2) 当該授業科目の規定授業時間数（半期7.5回、15回、通年30回）の3分の2以上出席していない者。
- 3) 学生証を所持していない者。
- 4) 試験開始後15分以上遅刻した者。
- 5) その他、教授会において受験資格がないと認められた場合。

〔8〕 受験時の諸注意（期末試験、追・再試験）

次の受験時の諸注意は必ず守ってください。

〈受験態度〉

受験の際は、終始公正な態度を保ち、いささかでも他から疑念をいだかれるような行為をしない。まぎらわしい行為は不正行為とみなされる場合がある。

〈監督者の指示の遵守〉

試験室においては、常に監督者の指示に従う。
指示に従わなかった場合は、退室を命じられる。

〈学生証の提示〉

受験生は、監督者が学生証を確認しやすいように、机上に置く。もし学生証を忘れた場合は、学生支援センターに申し出て、証明書自動発行機で仮学生証の交付を受ける。

ただし、仮学生証の有効期限は交付日のみとする。なお、交付のつど手数料1,000円が必要となる。また、学生証を紛失した場合は願い出れば、翌日の午前9時には再発行される。(手数料4,400円が必要)

〈不正行為〉

試験において万一不正行為があった場合、不正行為者の当該試験科目の評価は失格となる。また、不正行為のあった学期において既に実施済の科目および残された科目もすべて失格となる。

不正行為者は、学則第46条の規定により懲戒処分となり、その氏名および処分内容を学内に公表される。また、本人および保証人はその通知を受ける。

〈所持品の扱い〉

試験中は学生証、筆記用具(特に指示のない限り、鉛筆・シャープペンシル・消しゴムのみ)、監督者が許可したもの以外は机上に置かない。

その他の手荷物も机の中に入れてないで、足元に置く。

携帯電話等は試験室に入る前に電源を切っておく。また、これらを時計として使用することはできない。

〈参照許可物件〉

問題用紙に参照許可物件(テキスト、ノート、辞書等)が明示されている場合のみ、参照が許可される。

〈遅刻〉

遅刻は試験開始後15分までは認められる。ただし、遅刻して受験した試験の時間延長は認められない。

なお、遅刻により受験できなかった科目は失格となる。

〈退室〉

試験開始後30分を経なければ退室できない。途中退室する際は、答案を試験監督者に提出し静かに退室する。

〈再入室の禁止〉

いかなる場合でも、試験室からいったん退室したら再入室は認められない。

〈答案用紙〉

答案用紙は配付または指定されたものを使用し、書き損じたものや白紙のものも提出する。

3. 成績について

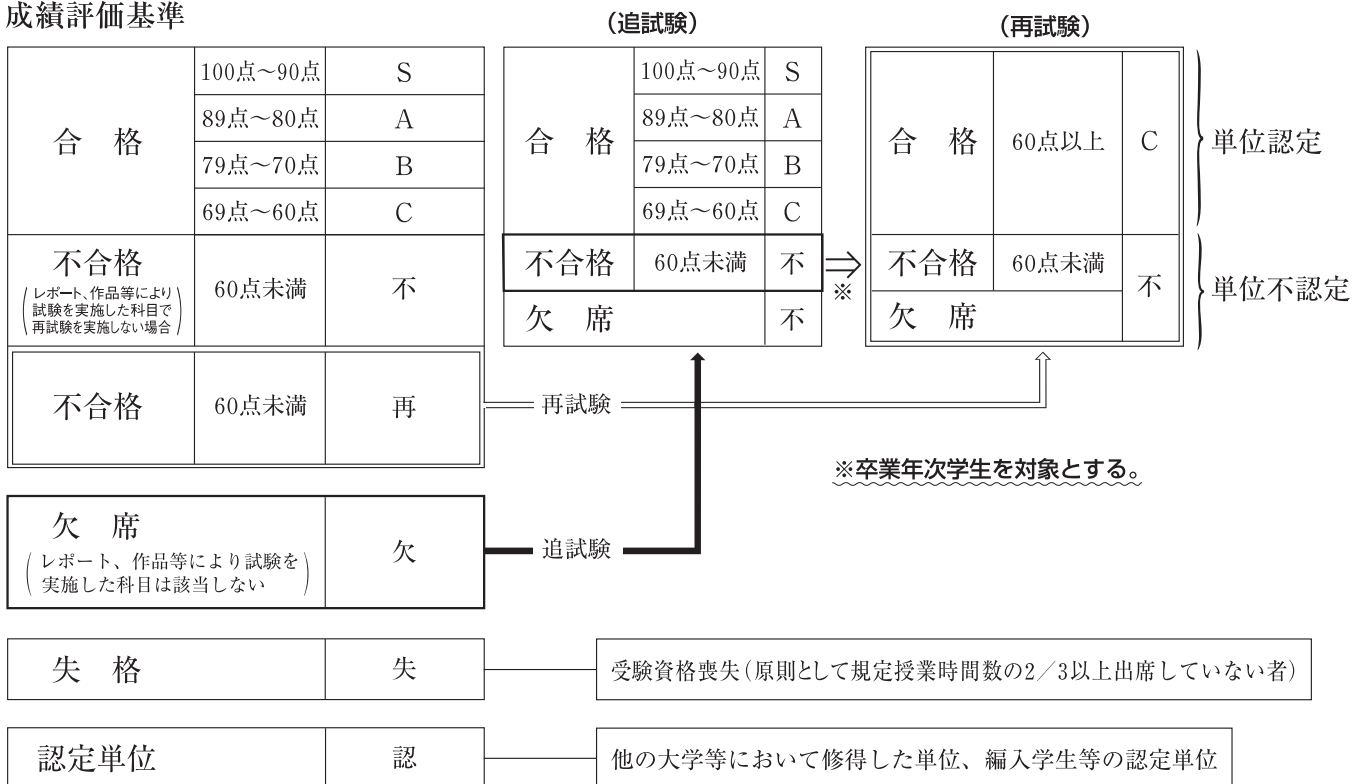
〔1〕 成績の評価・単位の認定

授業科目の成績評価は、試験成績と平常成績を総合して判定し、S・A・B・C・不とし、C以上を合格として当該授業科目の単位を認定します。

ただし、当該学期学費未納者については、学費完納まで単位認定を保留します。

なお、100点満点に換算した点数の評価基準は、次のとおりとします。

成績評価基準



〔2〕 成績の通知

期末試験及び追・再試験の結果は、各学期の成績発表日に学生ポータルサイトの成績照会で各自確認してください。既修得単位科目の成績(成績の累算)も成績照会で確認できます。

〔3〕 成績の問い合わせ

成績についての質問がある場合は、成績発表後3日以内(土・日・祝日除く)に学生支援センターに申し出て、「成績評価についての質問」に記入し提出してください。

4. GPAについて

GPAとは、Grade Point Average（グレード・ポイント・アベレージ）の略で、履修登録科目の評価等に対して、それぞれにGPを与え、獲得したポイント（GP×単位数）の合計を履修登録した総単位数で除した1単位あたりの成績平均値のことです。GPAを知ることによって、学業成績の状況を的確に判断し、自らの学修に対して主体的に自己評価することができ、その後の履修計画が適切にたてられます。

本学では、GPAを主に次の目的に利用するために導入しています。

- 1) 履修科目の安易な登録と、途中放棄の防止
- 2) GPA 評価平均が下位25%の学生に対する修学支援
- 3) 奨学金授与等における判定基準
- 4) 就職活動等における推薦者の選抜基準

〔1〕 GP（グレード・ポイント）

最終成績評価（S：4、A：3、B：2、C：1、不認定：0、失格：0、認定：-）

〔2〕 不合格科目等の取り扱い

成績評価が不合格の科目、失格となった科目のGPはすべて「0」としてGPAの算出対象となります。「認」は、GPAの算出対象外となります。

〔3〕 GPAの算出式

各科目の成績評価を成績値(GP)に換算し、科目の単位数を掛けて、合計単位数を当該期で履修登録した科目の総単位数で割ったものがGPAとなります。

$$\text{GPA} = \frac{(4 \times \text{Sの修得単位数}) + (3 \times \text{Aの修得単位数}) + (2 \times \text{Bの修得単位数}) + (1 \times \text{Cの修得単位数})}{\text{総履修登録単位数}}$$

5. 単位互換制度について

単位互換制度とは大学間の協定に基づき、他の大学または短期大学で履修し修得した単位を在籍する大学の履修で修得したものとみなす制度です。本学では、「名古屋女子大学と名古屋女子大学短期大学部の単位互換に関する協定書」並びに、愛知学長懇話会に加盟する大学・短期大学において締結された「単位互換に関する包括協定」に基づく制度があります。

(1) 名古屋女子大学短期大学部との単位互換制度

名古屋女子大学短期大学部の一部授業科目について履修及び単位修得が可能です。学生は、下記の内容を十分に理解して手続きをしてください。

(1) 名古屋女子大学短期大学部 単位互換科目一覧

授 業 科 目	授 業 形 態	単 位 数
生 活 マ ナ ー 演 習	演 習	1
簿 記 演 習 3	演 習	1

(2) 履修対象者

1年生後期から2年生の学生

(3) 単位数の算入

上記単位互換科目は、卒業要件の一覧表の単位互換科目の単位数として算入されます。

(4) 履修登録について

上記科目を履修する際は、「単位互換科目履修願」を学生支援センターへ提出する必要があります。手続き期限は以下のとおりです。

前期科目：4月第2木曜日まで 後期科目：9月第2木曜日まで

(2) 愛知学長懇話会の単位互換制度

他大学の単位互換向けに開放される科目の履修及び単位修得が可能です。詳しくは、学生支援センター前ホール掲示板と愛知学長懇話会ホームページを確認してください。

VIII. 海外留学

「留学」について

留学先で修得した授業科目の単位は60単位を上限として、本学で修得した単位として認められます。単位の認定を希望する場合は、留学前に学科の先生に相談して指導を受けてください。

海外留学については、学生生活の手引き「翔」または、本学HPの「留学制度・奨学金制度」を参照してください。海外交流室または学生支援センター学生生活支援オフィスに相談することもできます。

教務関係の用語

お オムニバス
複数の教員が授業内容を分担して受け持つ方式のことです。

か 下級履修
下級学年に担当されている授業科目を履修することです。

科目等履修生制度

資格取得等のために必要でありながら、在学中に履修しなかった(できなかった)、あるいは単位を認定されなかった科目を、卒業後に履修して単位を修得できる制度のことです。

き 期末試験
学期末に行われる試験のことです。

CAP制

各学期・年間の履修登録科目数(単位数)の上限を設定する制度のことです。

休学

病気等により一定期間授業を受けない状態のことです。休学するには所定の書式で届け出る必要があります。

休講

学校行事や授業担当教員の都合により、授業が行われないことです。

教育課程(カリキュラム)

教育の目的や目標を達成するため、どのような教育内容(授業科目)を、どれだけ(単位数)、どのような方法(必修・選択の別、担当する学年、授業期間・方法等)で教授するかを計画したものです。

け 欠席
やむを得ない理由(試験欠席の理由に順ずる)で授業を欠席する場合は、所定の欠席届を授業担当教員に提出してください。

さ 在学
本学の学生として、現に学修している(授業を受けている)状態のことです。

再試験

試験を受験し、不合格となった科目について、再度実施する試験のことです。

再履修

不合格となった科目を再度履修することです。合格して単位を認定された科目を再履修することはありません。

し GPA

Grade Point Average(グレード・ポイント・アベレージ)の略で、履修登録科目の評価等に対して、それぞれにGPを与え、獲得したポイント($GP \times$ 単位数)の合計を履修登録した総単位数で除した1単位あたりの成績平均値のことです。

失格（受験資格喪失）

当該授業科目の規定授業時間数（半期7.5回、15回、通年30回）の2／3以上出席しないと失格になり、試験が受けられません。

授業計画（シラバス）

授業内容の概要を記載したもので、履修登録をする際には必ず熟読してください。講義概要、講義要項などと呼ばれることもあります。一般的に授業科目名、担当者名、授業の目的と概要、授業の到達目標、授業計画、学習上の留意事項、授業外学習の指示、成績評価基準、テキスト、参考書、その他受講に際して必要な事項が記されています。

授業形態

授業実施方法のことで、次の5つに分けられます。

- 1) 講義 …… 教員が学生に対し、説明することを主として知識を授ける授業方法のことです。
- 2) 演習 …… 教員の講義とともに、学生も討議・発表等を行いつつ指導を受ける授業方法のことです。
- 3) 実験 …… 理論や推論が正しいかどうかを、一定の条件で試してみる授業方法のことです。
- 4) 実習 …… 実地について学習する授業方法のことです。
- 5) 実技 …… 実際に身体を用いて行う授業方法のことです。

開講時期・期間で区分すると、次の3つになります。

- 1) 通年 …… 1年間、毎週授業が行われます。
- 2) 半期 …… 前期あるいは後期の半年間、毎週授業が行われます。
- 3) 集中 …… 休業期間中などに、短期間（3～6日間程度）で授業が行われます。

除籍

学費未納等の理由により、遡って在籍していなかったものとみなされることです。

せ 成績評価

単位を授与する際の基準と表記方法を示すものです。本学では、試験成績と平常成績を総合して判定し、90点以上をS、80点～89点をA、70点～79点をB、60点～69点をC、60点未満を不と表記することにしています。

選択科目

履修する、しないを自由に決められる科目のことです。

選択必修科目

複数の科目のうちから、1科目あるいは複数の科目を選んで単位を修得しなければならない科目のことです。未修得の場合は卒業が認められません。

そ 卒業要件

卒業に必要な条件のことです。次の2つをともに満たさなければいけません。

- 1) 4年以上在学していること。休学の期間は含まれません。
- 2) 学科の課程を修了するのに必要な単位数を修得していること。

た 退学

卒業前に、病気・その他やむを得ない事情で大学を辞めることです。

単位

授業科目の内容に必要な学修量（時間）を示す基準のことです。所定の単位数を積み上げることにより、卒業できる制度のことを単位制といいます。

単位互換

協定を結んだ他大学の授業科目を履修し修得した単位を、本学の授業科目を履修し修得したものとみなすことができる制度のことです。

単位の認定

本学では、成績評価がS，A，B，Cの場合、これを合格として単位を認定します。それ以外は不合格ですので、単位は認定されません。

つ 追試験

病気等やむを得ない事由により、試験を受験できなかった者に対して実施する試験のことです。

ひ 必修科目

必ず単位を修得しなければならない科目のことです。たとえ1科目でも未修得の科目があれば、卒業が認められません。

ふ 復学

休学者が大学に復帰することです。

へ 編入学

異なる制度の学校から第1学年の途中または第2学年以上に入学することをいいますが、短期大学を卒業して、大学の第3年次に入学するケースが一般的です。

ほ 補講

休講により生じた授業時間数の不足を補うために実施される授業のことですが、休講がない場合でも、授業の進み具合によって実施されることがあります。

り 履修

授業を受けて学修することです。

履修登録

どの授業科目を履修するか意思表示を行うことです。